

神主さんが教えた

伊勢神宮



まえがき

「伊勢神宮」、20歳以上で96%の方が知っているというデータもあり、日本人のほとんどが伊勢神宮をご存じだといえます。しかし、「伊勢神宮ってどんな神様が祀られているの?」「伊勢神宮って何県にあるの?」と聞かれたとき、答えられない人も多いのではないのでしょうか。

伊勢神宮は、皇室の御先祖・天照大御神様という尊い神様がおよそ2000年前にお祀りされ、また、1300年もの伝統を誇る20年に一度の我が国最大の祭典「式年遷宮」が永々と続いていることなど、全国の数ある神社の中で最も重要な神社として歩み続けてきました。

そして、いろいろな時代の変遷を経ながら、今も昔も日本に住む人々はもちろんのこと、多くの外国の方々の心までも引き付けてきました。しかしながら、現代において伊勢神宮の意義や重要性など、ご存じでない方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこでこの度、若い神主（神職）がガイドブックとは違い、神主ならではの視点で、昔より多くの人々に愛されてきた伊勢神宮の魅力と神髄をお伝えし、まずは日々の生活に感謝の気持ちを持って神様の前で手を合わせてお参りをさせていただきたいとの願いのもと、特にこれから日本を背負って立つ若い人達にも、色あせることなくいつまでも正しい知識として読んでいただきたいという思いから、電子書籍「神主さんが教えたい伊勢神宮」を制作させていただきました。

本書を通じ、先人が長い年月を掛けて築き上げた日本の歴史の奥深さ、人間の力が及ばないものに対する畏敬の念を持つ心、生命には欠かすことの出来ない自然の恵みのありがたさなどを感じていた

だき、実際に伊勢神宮をお参りされるときの一助となりましたら幸いです。

そもそも 伊勢神宮とは？





○「伊勢神宮」とは？

伊勢神宮は、三重県伊勢市に位置しています。
全国には約8万社の神社があり、様々な神様をお祀りしていますが、その中でも伊勢神宮は最も尊いお宮といわれています。それはいったい何故でしょうか。

○天照大御神

伊勢神宮でお祀りしている神様の中心は^{あまてらすおおみかみ}天照大御神です。日本には^{やおよろず}八百万 (...数限りなく多いという意味) の神様がいらっしゃいますが、その中で最も尊い存在とされています。

○日本の歴史と天照大御神

皆さんは日本がいつ建国されたかご存じでしょうか。建国記念の日は2月11日ですが、これは何の日でしょう。

答えは、初代の天皇である神武天皇^{じんむてんのう}が即位した日です。では何年前かという、西暦でいうと【紀元前660年】のことです。つまり西暦に660年を足したものが日本国の歴史ということになります。これを「皇紀^{こうき}」といいます。例えば、平成25年は皇紀2673年となります。

以降、今上天皇^{きんじょうてんのう}（現在の天皇陛下）まで、神武天皇から125代にわたり御一筋^{おひとすじ}の系統によって日本の国は統治されています。これを「万世一系^{ばんせいいつけい}」といい、1つの君主の系統が、約2700年もの長い歴史にわたって続いている国は世界に例を見ません。

実はこのことが、伊勢神宮が最も尊いお宮、天照大御神が最も尊い神様であるということに深い関係があるのです。

天照大御神は初代神武天皇の5代前の祖神^{おやがみ}です。つまり天照大御神の子孫が神武天皇であり、神武天皇から125代目になられますのが今上天皇です。天照大御神は日本の歴史とともに、皇室の祖神として大切にお祀りされてきました。

○「伊勢神宮」のご創建

伊勢神宮が現在の場所にお祀りされたのは、2000年以上も昔になります（西暦では紀元前4年）。

その始まりは、天照大御神が御自身の子孫に日本の国の統治を命じる際「八咫鏡^{やたのかがみ}」（...三種の神器のひとつ）を授け「この鏡を私自身とってお祀りしなさい」とおっしゃったことによります。

初代神武天皇から第10代崇神天皇^{すじんてんのう}まで、この八咫鏡は皇居でお祀りされていましたが、より良い場所を求め、第11代垂仁天皇^{すいにんてんのう}の御代^{みよ}（時代）に、皇女^{こうじょ}（天皇の娘）・倭姫命^{やまとひめのみこと}が現在の伊勢の地、五十鈴川の川上にお遷^{うつ}しされました。

○「伊勢神宮」の名称と構成

伊勢神宮は、古くから「お伊勢さん」と親しみを込めて呼ばれていますが、伊勢を付けずに、ただ「神宮」というのが正式な名称です。

また更に詳しくいうと、伊勢神宮は**天照大御神**をお祀りする「**皇大神宮**」（「**内宮**」）と、**豊受大御神**をお祀りする「**豊受大神宮**」（「**外宮**」）の両宮を中心として、数々のお宮・お社から成り立っています。（[詳しくはこちら](#)）

豊受大御神は**天照大御神**のお食事を司る神様であり、「豊受大神宮（外宮）」は今からおよそ1500年前にご創建されました。日本の主食であるお米をはじめ、衣食住の恵みを与えてくださる産業の神様としても信仰されています。

伊勢神宮の 春夏秋冬





伊勢神宮では、その年の収穫を大御神に感謝する最も重要な神事である「^{かなめさい}神嘗祭」をはじめ、1年を通じて1500もの祭典が古式に^{のつと}則り厳肅に執り行われています。

その祭典は、ご鎮座以来一貫して、天皇陛下の御意志によって天照大御神をお祀りされるところに大きな特徴があります。

その為、重要な祭典には、天皇陛下の御代理である神宮祭主が奉仕されるとともに、お使いである勅使も遣わされて、国家の繁栄・五穀の豊穰・国民の平安をお祈りされています。

○年間を通しての神宮祭典・恒例式・行事



○毎日

〈祭典名〉 ^{ひごとあさゆうおおみけさい} 日別朝夕大御饌祭

〈祭典の趣旨〉 年中、毎日朝夕の2度、外宮の御饌^{みけでん}殿にて、天照大御神、豊受大御神、各相殿神及び各別宮諸神に大御饌（お供えもの）を捧げる。

○随時

〈祭典名〉 ^{たいましゅはつしき} 大麻修祓式

〈祭典の趣旨〉 神宮の御神札^{おふだ}、御守^{おまもり}などが奉製された時にお祓いする修祓式^{しゅはつしき}。（頒布部祭場）

○ 新春 1月～3月



《神宮祭典並びに恒例式》

●1月1日

〈祭典名〉^{さいたんさい}歳旦祭

〈祭典の趣旨〉新しい年のはじめをお祝いする。（外宮・内宮）

●1月3日

〈祭典名〉^{げんしさい}元始祭

〈祭典の趣旨〉天津日嗣（皇位）の元始をお祝いする。（外宮・内宮）

●1月7日

〈祭典名〉^{しょうわてんのうさいようはい}昭和天皇祭遙拝

〈祭典の趣旨〉先帝のおかくれの日、宮中皇霊殿にて御親祭が行われるのに際して、伊勢神宮でもその遙拝式が行われる。（内宮第一鳥居内祓所）

●1月上旬

〈祭典名〉^{たいまれきほうせいはいじめさい}大麻暦奉製始祭

〈祭典の趣旨〉神宮大麻と暦の奉製始めの祭典が行われる。（頒布部祭場）

●1月11日

〈祭典名〉^{いちがつじゅういちにちみけ}一月十一日御饌

〈祭典の趣旨〉両正宮をはじめ、諸宮社にお祀りするすべての神々に^{しんせん}神饌を捧げる。続いて五丈殿で舞楽が奉奏される。（内宮）

●1月31日

〈祭典名〉^{おおはらい}大祓

〈祭典の趣旨〉大祭の前月末日に、神宮神職・楽師の罪・穢れを祓う行事が行われる。また6月、12月の末日には全職員の大^{おおはらい}祓が行われる。（内宮第一鳥居内祓所）

●2月11日

〈祭典名〉^{けんこくきねんさい}建国記念祭

〈祭典の趣旨〉国の創建をお祝いし、今後のさらなる隆昌をお祈りする。（外宮・内宮）

●2月17日～2月23日まで

〈祭典名〉^{きねんさい}祈年祭

〈祭典の趣旨〉「としごいのまつり」ともいい、神饌を捧げて五穀の豊穰をお祈りする大^{おおみけ}御饌の儀と、勅使が参向して奉仕される^{ほうへい}奉幣

の儀の二つの祭典が行われる。引き続き別宮以下諸宮社でも同様の祭典が行われる。（外宮・内宮）

●3月5日

〈祭典名〉^{たいまれきはんぷしゅうりょうさい}大麻暦頒布終了祭

〈祭典の趣旨〉崇敬者に頒布する神宮大麻と暦の頒布の終了に際しての奉告祭。（内宮神楽殿）

●3月春分の日

〈祭典名〉^{みそのさい}御園祭

〈祭典の趣旨〉神嘗祭をはじめとする祭典などに^{しんせん}神饌として用いる野菜、果物などの豊作をお祈りする。（神宮御園）

●3月春分の日

〈祭典名〉^{しゅんきこうれいさいようはい}春季皇霊祭遙拝

〈祭典の趣旨〉宮中皇霊殿で皇祖をお祀りされるのに際して、伊勢神宮でも遙拝式が行われる。（内宮第一鳥居内祓所）

《行事》

●3月下旬～4月上旬

〈行事名〉神宮奉納大相撲

〈場 所〉神宮相撲場

○ 夏 4月～6月



《神宮祭典並びに恒例式》

●4月上旬

〈祭典名〉 しんでんげしゅさい 神田下種祭

〈祭典の趣旨〉 神嘗祭をはじめ諸祭典にお供えする御料米の稲種を神田にはじめて蒔く祭典。（神宮神田）

●4月3日

〈祭典名〉 じんむてんのうさいようはい 神武天皇祭遙拝

〈祭典の趣旨〉 神武天皇おかくれの日、宮中皇霊殿にて御親祭が行われるのに際して、伊勢神宮でもその遙拝式が行われる。（内宮第一鳥居内祓所）

●4月中旬

〈祭典名〉^{たいまようざいきりはじめさい}大麻用材伐始祭

〈祭典の趣旨〉神宮大麻の御用材を伐り始めるにあたって、内宮宇治橋の向かい側の山上の祭場で、祭典が行われる。

●4月30日

〈祭典名〉^{おおはらい}大祓

〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

●5月1日

〈祭典名〉^{かんみそほうしよくはじめさい}神御衣奉織始祭

〈祭典の趣旨〉^{かんみそさい}神御衣祭に奉納される皇大神宮及び荒祭宮御料の^{にぎたえ}和妙（絹）・^{あらたえ}荒妙（麻）2種の神御衣を^お織りはじめるにあたって行われる祭典。（^{かんはとりはたどのじんじゃ}神服織機殿神社・^{かんおみはたどのじんじゃ}神麻続機殿神社）

●5月上旬

〈祭典名〉^{おたうえはじめ}神田御田植初

〈祭典の趣旨〉神嘗祭をはじめ諸祭典にお供えする御料米の苗を神田にはじめて植える行事。（神宮神田）

●5月13日

〈祭典名〉^{かんみそほうしよくちんしゃさい}神御衣奉織鎮謝祭

〈祭典の趣旨〉神御衣の和妙・荒妙の麗しく織り上がったことを感謝する祭典。（^{かんはとりはたどのじんじゃ}神服織機殿神社・^{かんおみはたどのじんじゃ}神麻続機殿神社）

●5月14日

〈祭典名〉^{かざひのみさい}風日祈祭

〈祭典の趣旨〉正宮以下すべての神様に、^{ごへい}御幣、^{かさ}笠、^{みの}蓑を捧げ、雨風の順調、五穀の豊穰をお祈りする。（外宮・内宮）

●5月14日

〈祭典名〉^{かんみそさい}神御衣祭

〈祭典の趣旨〉皇大神宮と荒祭宮に和妙・荒妙2種の神御衣を奉納する祭典。（内宮正宮・荒祭宮）

●5月31日

〈祭典名〉^{おおはらい}大祓

〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

●6月1日

〈祭典名〉^{みさかどのさい}御酒殿祭

〈祭典の趣旨〉^{つきなみさい}月次祭にお供えする御料酒が、麗しく醸造されるようにお祈りする祭典。（内宮御酒殿）

●6月15日

〈祭典名〉^{おきたまのかみさい}興玉神祭

〈祭典の趣旨〉月次祭奉仕にあたり、内宮御垣内西北隅にご鎮座の地主の神、興玉神をお祀りする。

●6月15日

〈祭典名〉^{みうら}御卜

〈祭典の趣旨〉月次祭を奉仕する神職の1人ひとりが、奉仕直前に神の御心^{かな}に適うか、お伺いする神事。（内宮）

●6月15日～6月25日まで

〈祭典名〉^{つきなみさい}月次祭

〈祭典の趣旨〉^{ゆきのおおみけ}由貴大御饌を午後10時、翌午前2時の2度奉り、次いで正午に奉幣の儀が行われる。引き続き別宮以下諸宮社でも祭典が行われる。外宮（6月15日、16日）内宮（6月16日、17日）

●6月30日

〈祭典名〉 ^{おおはらい} 大 祓
〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

《行事》

●4月19日

〈行事名〉 ^{つきよみのみやしゅんきだいさい} 月夜見宮春季大祭
〈場 所〉 月夜見宮

●4月28日～30日まで

〈行事名〉 春の神楽祭
〈場 所〉 内宮神苑・特設舞台ほか

●5月5日

〈行事名〉 ^{やまとひめのみやはる れいたいさい} 倭 姫 宮 春の例大祭
〈場 所〉 倭姫宮

●5月下旬～6月上旬

〈行事名〉 サツキと盆栽の奉納展示
〈場 所〉 内宮神苑

●6月中旬

〈行事名〉 花菖蒲の献花
〈場 所〉 内宮神苑

●6月24日

〈行事名〉 ^{いざわのみやおたうえしき} 伊雑宮御田植式
〈場 所〉 伊雑宮御料田

○ 秋 7月～9月



左上: 御塩浜採鹹作業
左下: 御塩焼固
上: 御塩焼所

《神宮祭典並びに恒例式》

●8月4日

〈祭典名〉^{かざひのみさい} 風日祈祭

〈祭典の趣旨〉御幣を捧げ、雨風の順調、五穀の豊穰をお祈りする。（外宮・内宮）

●9月上旬

〈祭典名〉^{ぬいぼさい} 抜穂祭

〈祭典の趣旨〉神田にて神嘗祭にお供えする御料米の稻穂を刈り取る祭典。（神宮神田）

●9月17日

〈祭典名〉^{たいまれきはんぷはじめさい}**大麻暦頒布始祭**

〈祭典の趣旨〉崇敬者に翌年の神宮大麻、暦を頒布するに際して、関係者参列のもとに行われる頒布始めの奉告祭。（内宮神楽殿）

●9月秋分の日

〈祭典名〉^{しゅうきこうれいさいようはい}**秋季皇霊祭遙拝**

〈祭典の趣旨〉春分の日と同様に、遙拝式が行われる。（内宮第一鳥居内祓所）

●9月30日

〈祭典名〉^{おおはらい}**大祓**

〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

《行事》

●7月中旬

〈行事名〉**神宮奉納花火大会**

〈場 所〉宮川河畔

●9月の仲秋

〈行事名〉**神宮観月会**

〈場 所〉外宮勾玉池奉納舞台

●9月19日

〈行事名〉**月夜見宮秋季大祭**

〈場 所〉月夜見宮

●9月秋分の日の前後3日間

〈行事名〉**秋の神楽祭**

〈場 所〉内宮神苑特設舞台ほか

○ 冬 10月～12月



《神宮祭典並びに恒例式》

●10月1日

〈祭典名〉 御酒殿祭

〈祭典の趣旨〉 神嘗祭にお供えする御料酒が、麗しく醸造されるようにお祈りする祭典。（内宮御酒殿）

●10月1日

〈祭典名〉 神御衣奉織始祭

〈祭典の趣旨〉 （5月の祭典を参照）

●10月5日

〈祭典名〉 みしおどのさい 御塩殿祭

〈祭典の趣旨〉年中の諸祭典にお供えする御塩が、麗しく奉製されるようにお祈りし、また塩業に従事する人々の守護をお祈りする。
(御塩殿神社)

●10月13日

〈祭典名〉神御衣奉織鎮謝祭

〈祭典の趣旨〉(5月の祭典を参照)

●10月14日

〈祭典名〉神御衣祭

〈祭典の趣旨〉(5月の祭典を参照)

●10月15日

〈祭典名〉興玉神祭

〈祭典の趣旨〉(6月の祭典を参照)

●10月15日

〈祭典名〉御卜

〈祭典の趣旨〉(6月の祭典を参照)

●10月15日～10月25日まで

〈祭典名〉^{かんなめさい}神嘗祭

〈祭典の趣旨〉その年の新穀を大御神に奉り、御神恩に感謝申し上げる最も由緒深く重要な祭典。天皇陛下が勅使をお遣わしになり、奉幣の儀が奉仕される。

- ・由貴夕大御饌 外宮(15日午後10時)内宮(16日午後10時)
- ・由貴朝大御饌 外宮(16日午前2時)内宮(17日午前2時)
- ・奉幣 外宮(16日正午)内宮(17日正午)
- ・御神楽 外宮(16日午後6時)内宮(17日午後6時)

引き続き別宮以下諸宮社でも祭典が行われる。

●10月31日

〈祭典名〉 ^{おおはらい}大祓

〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

●11月23日～11月29日まで

〈祭典名〉 ^{にいなめさい}新嘗祭

〈祭典の趣旨〉新穀を天皇陛下自ら神々に奉られ、また御自らもお召し上がりになる儀式が宮中で行われるに際して、伊勢神宮にも勅使をお遣わしになられて、奉幣の儀が行われる。またこれに先立って神饌を捧げる大御饌祭を奉仕する。引き続き別宮以下諸宮社でも祭典が行われる。

●11月30日

〈祭典名〉 ^{おおはらい}大祓

〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

●12月1日

〈祭典名〉御酒殿祭

〈祭典の趣旨〉（6月の祭典を参照）

●12月15日

〈祭典名〉興玉神祭

〈祭典の趣旨〉（6月の祭典を参照）

●12月15日

〈祭典名〉御卜

〈祭典の趣旨〉（6月の祭典を参照）

●12月15日～12月25日まで

〈祭典名〉月次祭

〈祭典の趣旨〉6月の月次祭を参照。外宮（12月15日、16日）内宮（12月16日、17日）

●12月23日

〈祭典名〉^{てんちようさい}天長祭

〈祭典の趣旨〉天皇陛下の御誕生日をお祝い申し上げる祭典が行われる。（外宮・内宮）

●12月下旬

〈祭典名〉大麻暦奉製終了祭

〈祭典の趣旨〉その年の神宮大麻、暦の奉製が終了したことを大御神に奉告する祭典。（頒布部祭場）

●12月31日

〈祭典名〉^{おおはらい}大祓

〈祭典の趣旨〉（1月の祭典を参照）

《行事》

●10月15・16日

〈行事名〉^{はつほびき}初穂曳

〈場 所〉宮町～外宮・浦田橋～内宮

●10月25日

〈行事名〉^{いざわのみや}伊雑宮調献式

〈場 所〉伊雑宮

●10月下旬～11月中旬

〈行事名〉菊花の奉納

〈場 所〉両宮神苑

●11月5日

〈行事名〉^{やまとひめのみや}倭姫宮秋の例大祭

〈場 所〉倭姫宮

伊勢神宮の 神主さん





○伊勢神宮にお仕えする神職

伊勢神宮には様々な職種の人たちが日々ご奉仕していますが、その中でも神職（^{しんしよく}神主）は約100名います。

神職は年間を通じて行われる[祭典](#)をご奉仕することが一番大切な職務であり、それぞれの立場に応じて様々な形でお仕えしています。

伊勢神宮の神職は以下の職名に分けられます。

【^{さいしゅ}祭主】

天皇陛下の「^{おおみてしろ}大御手代」（代わって直にご奉仕すること）としての立場で、年間5回の特に大きな祭典に参向します。皇族、または皇

族であった方がその役をお務めになり、ご就任には勅旨^{ちよくし}（天皇陛下の御意志）を奉じます。

【大宮司^{だいぐうじ}】

祭主を補佐して祭典をご奉仕し、職員を総監し伊勢神宮の全般の事務を統括する立場にあります。年間の祭典の中では、「皇大神宮」・「豊受大神宮」の両正宮^{しょうぐうのり}で祝詞を奏上します。

【少宮司^{しょうぐうじ}】

大宮司を補佐して祭典をご奉仕し、伊勢神宮の全般の事務を整理する立場にあります。年間の祭典の中では、内宮・外宮それぞれの第一別宮^{べつぐう}の「荒祭宮^{あらまつりのみや}」・「多賀宮^{たかのみや}」で祝詞を奏上します。

【禰宜^{ねぎ}】

祭典の中では大宮司・少宮司に次いで重要な役割を担い、特に神様に近い場所で奉仕する立場にあります。外宮で毎日行われている「日別朝夕大御饌祭^{ひごとあさゆうおおみけさい}」や、年間の祭典では第一別宮以外の12の別宮で祝詞を奏上します。

【権禰宜^{こんねぎ}】

禰宜を補佐して祭典をご奉仕します。神様にお供えする食事「神饌^{しんせん}」は、権禰宜の責任のもと調理されます。また、摂社^{せつしゃ}・末社^{まつしゃ}・所管社での祭典で祝詞を奏上します。

【宮掌^{くじょう}】

権禰宜を補佐して祭典をご奉仕します。

【出仕^{しゅつし}】

神職になる為の勉強を終えて伊勢神宮の神職になると、最初にお仕えする立場です。

○伊勢神宮の神職のご奉仕

伊勢神宮での神様へのご奉仕は、何事も「清浄」であることが重んじられ、穢^{けが}れを遠ざけます。

お仕える全ての神職は、ご奉仕をする際の白い着物（白衣）に着替える前には、まずお湯で身を清めなくてはなりません。これを「潔齋^{けっさい}」といいます。

また、様々な場合において「参籠^{さんろう}」が必要となります。

「参籠」とは内宮・外宮の神域にある「齋館^{さいかん}」という建物の中に、前日の夜からお籠^こもりすることで、決められた食事「齋食^{さいしょく}」だけを食べ、言動を慎み、心身を静かに整えて過ごします。では、どんな場合に参籠が必要なのでしょう。

例えば神様にお供えするお食事（神饌^{しんせん}）に手を触れる場合が、これに該当します。社殿の前に設けた机にお供えをする役に当たる人は勿論のこと、お供えする以前に、「調理（食材を決められた大きさに切ったり、見目美しく括ったり盛り付けるご奉仕）」に関わる人も皆、参籠が求められます。

また、これ以外にも社殿の階^{きざはし}を上がって大床に上がる場合や、社殿の扉を開く場合、祝詞を奏上する役、お祓いをする役など、つまりは神様の近くでのご奉仕、神事を中心となるご奉仕に関わる人には全て参籠が必要となります。

参籠の最中は神域の外へ出ることができません。例えば内宮の参籠へ入ったら、祭典のご奉仕を終えるまで、宇治橋からは出られないということになります。基本的に参籠は前1夜ですが、務める役が重ければ前2夜、最長では前5夜にまで亘る参籠が必要になる場合があります。

○日々のお務め

伊勢神宮の神職は、祭典がない期間も各所で様々な内容のご奉仕をしていますが、中でも最も大切な日々のお務めは「宿衛^{しゅくえい}」です。

「宿衛」とは前述の潔斎をして身を清め、清浄な装束を着用の上、神様のお近くに身を置いて御神前をお守りするお務めです。

正宮の参拝をする位置から見て左側に、小さな建物があります。ここは「宿衛屋^{しゅくえいや}」という建物で、24時間神職が御神前を離れることなく詰めているのです。

また宿衛に当たる神職は、常に社殿や周辺の様子を点検し、異状がないことを確認します。特に社殿を囲う垣の内側は、神事を執り行う最も神聖な祭場^{さいじょう}ですから、絶えず落葉や雑草を取り除くお掃除にも努め、365日清らかな状態を保っています。

正しい 参拝マナー





私たち日本人の祖先は、自然の中に神々の力を感じ、神様への感謝と祈りを生活の中心に置いてきました。

食事の度に手を合わせて自然の恵みに感謝し、お正月や人生の節目には家族の健康や平安などを祈り神社へお参りに行きます。こうした日本人の習慣は今も昔も変わりません。参拝の作法は長い間の変遷を経て、現在の形となっています。清々しく参拝する為にも正しい作法を是非覚えましょう。

1：鳥居

鳥居は、神社の境内と外を分ける境に立てられ、鳥居の内は神様がお鎮まりになる神域として尊ばれています。

ですから、神域に入る最初の鳥居をくぐる際は、その手前で「一礼」をしてから通しましょう。

帰る際も、最後の鳥居を出た時に「一礼」をするよう心掛けましょう。

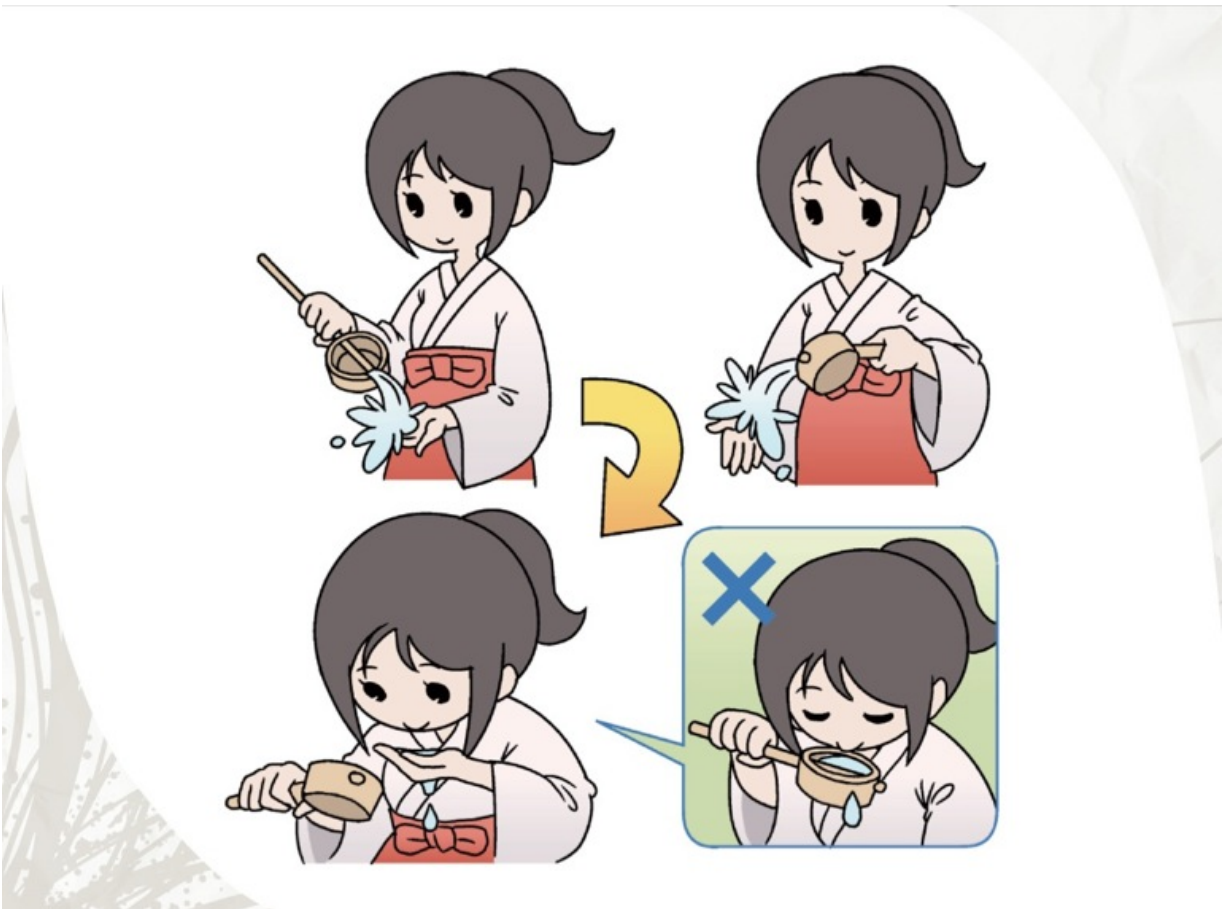
2：手水

神社にお参りするにあたっては、神様に失礼の無いよう自分自身でお清めします。まず、自ら「心身の清浄」につとめることが重要です。

手水の意義は、汚れを洗い流すのではなく、お清めをすることです。

正しい作法を是非覚えておきましょう。

- ① 柄杓ひしゃくを右手でとり、左手を洗います。
 - ② 柄杓を左手に持ち替え、右手を洗います。
 - ③ 柄杓を右手に持ち替え、左手に水を受け、口をすすぎます。
- この時、面倒だからといって直接柄杓に口を付けないようにしましょう。



④ あらためて左手を洗います。最後に、柄杓を立て自分の握っていた柄の部分に水を流します。



※①～④までを一杯の水で行います。

3：参拝

お参りの作法は、「にはいにはくしゅいっぱい二拝二拍手一拝」です。

- ① 御神前に進み姿勢を正します。
- ② 賽銭箱にお賽銭を入れ、鈴のある神社では鈴を鳴らします。
- ③ 2回深くお辞儀しぎをします。
- ④ 胸の高さで両手を合わせ、右手を少し引きます。
- ⑤ 肩幅程度に両手を開き、2回拍手をします。
- ⑥ 右手を戻し、両手を合わせ、お祈りをします。
- ⑦ 両手を降ろし、もう1度深くお辞儀をします。



※神社によっては鈴の付いていない所もあります。

参拝の注意

静かに参拝をしたい時に、
携帯電話が鳴ったりすると
雰囲気は損なってしまうことも
ありますよね。

せっかく神域の中で過ごす普段と
違う特別な時間ですから、
他の事は忘れて、
たまには電源を切ってから
境内に入ってみては
いかがでしょうか♪



社殿の中央は、
神様の真正面にあたり
せいちゅう
「正中」と言います。

正中にはあまり踏み込まないように
することも作法のひとつです。

また参道でも
慎みの気持ちを持って、
できるだけ中央を避けて
歩くよう心掛けましょう。



服装について

決まりはありませんが、
参拝とは神様に礼儀正しく
ご挨拶をすることが目的です。
あまりにくだけ過ぎた格好は
避けたいものですね。

長い参道の神社では
ヒールの高い靴よりも、
歩きやすい靴が
参拝に望ましいですよ♪



古来、神域内の御神木は
大切に保護されてきました。
多くの人が樹皮に触ったり
根を踏むと樹木の寿命を
縮めてしまうこともあります。
御神木には
あまり触れないよう
気をつけましょう。



お ふ だ おまもり
御神札や御守は

信仰の対象となる大切なものです。

必要以上に触ったり

写真を撮ることは控えましょう。

「買う」のではなく

「授かる」という気持ち
が大切です。



神社によっては撮影が
禁止されている場所もあるので
注意しましょう。

また、社殿など尊いものを
撮影した場合は、

写真が粗末にならないように
心がけて下さい。

※伊勢神宮では正宮と
その付近での撮影が
禁止されています。



ペットを連れての参拝が
禁止されている神社もあります。
それぞれのお宮での決まりに
ご注意ください。

※伊勢神宮では
ペットを連れての参拝は
できません。



「内宮」「外宮」の ご案内と歩き方





外宮・内宮の神域には、
たくさんのお宮や建物があります。
それらを参道にそって
順番にご説明いたします。

外宮



伊勢神宮は外宮^{げくう}から内宮の順でお参りするのが一般的です。

ここは外宮の入口にあたる「火除橋^{ひよけばし}」です。正式には「第一鳥居口^{みはし}御橋」といい、江戸時代に火災予防の為、造られた川に架けられている橋です。

この橋を渡るといよいよ外宮神域へと入ります。左側通行で進んで下さい。

また、火除橋を渡ってすぐ左手には手水舎^{てみずしゃ}がありますので、[手と口を淨めて下さい](#)。



手水舎を越えてすぐ左手に見える大きな建物は、第62回神宮式年遷宮を記念して建設された施設「せんぐう館」です。平成24年4月7日に開館しました。

ここでは主に式年遷宮に関わる社殿造営・御装束^{おんしょうぞく}神宝奉製^{しんぼうほうせい}の技術等を紹介しています。

更にタッチパネル式の情報検索によって、神宮全般について詳しい知識を得ることなどもできます。

【開館時間】 午前9時～午後4時30分
(但し入館は午後4時まで)

【休館日】 毎月第4火曜日
(祝日の場合はその翌日)

【入館料】 一般 ￥300 中学生以下 ￥100

※団体割引あり(20名以上)



火除橋を渡ってすぐ右手に見える樹は「清盛楠^{きよもりぐす}」と呼ばれています。平安時代、平清盛が勅使として参向した際に、冠に当たった枝を伐らせたとの謂われがあります。これは伝説にすぎませんが、清盛はその生涯の内3度、実際に勅使として伊勢神宮を参拝しています。



先へ進むと「第一鳥居」が建っています。その名の通り表参道の第1番目の鳥居で、神域の入口を示しています。さあここをくぐって外宮の杜に足を踏み入れましょう。



第一鳥居をくぐって右に見える建物は「^{さいかん}齋館」といいます。齋館とは祭典の時に神職が前夜から^{さんろう}参籠をする為の施設です。通常は1夜のみの参籠ですが、重い所役になると2夜、遷宮の祭典では最大5夜の参籠もあります。



齋館を越えると「第二鳥居」があります。表参道の2番目にある鳥居で、祭典の際、皇室からお供えされる幣帛（^{へいはく}錦や絹など布系統のお供え）などのお祓いはここで行われます。また、皇族のご参拝時は、ここで下車されます。



第二鳥居をくぐって進むと、景色が開けます。右手の大きな建物は「^{かぐらでん}神楽殿」です。外宮の御神札・御守^{おふだ おまもり}を授与しています。神楽・御饌^{みけ}（ご祈祷）のお申し込み、式年遷宮の御造営資金^{ごぞうえいしきん}のご寄付、御朱印もこちらにお申し出下さい。

神宮のご祈祷は、「御饌^{みけ}」と「神楽」の2つの形式があります。

「御饌」は神様にお食事を捧げて祝詞でお願い事をお伝えしますが、「神楽」はこれに加え雅楽を奏で、舞を捧げる、より丁寧な形のご祈祷です。



外宮の中心である「^{しょうぐう}正宮」です。ここに衣食住の神様である**豊受大御神**がお祀りされています。御門の前まで進み、[神様にご挨拶](#)をしましょう。

お参りをする場所から見て左側にある建物は「^{しゅくえいや}宿衛屋」といい、装束を着けた神職が常時神様のお側に控えています。なお、鳥居より内側での写真撮影はできません。



ここは外宮の第一別宮である「^{たかのみや}多賀宮」を^{ようはい}遙拝（離れた所からの拝礼）する場所です。別宮を参拝するお時間の無い方は、どうぞこちらからお参り下さい。



多賀宮

石段を上った先にご鎮座しているのは「多賀宮」です。14別宮の1つであり、外宮の第一別宮と位置づけられています。豊受大御神の^{あらみたま}荒御魂をお祀りし、正宮に次いで大切な場所です。



石段の下には別宮が2箇所あります。

1つは「^{つちのみや}土宮」といい、この一帯の土地神様である^{おおつちみおやのかみ}大土御祖神をお祀りしています。



もう1つは「^{かぜのみや}風宮」といいます。風雨を司る^{しなつひこのみこと}級長津彦命・
^{しなとべのみこと}級長戸辺命をお祀りしています。



五丈殿と九丈殿

この建物は、「^{ごじょうでん}五丈殿」（写真奥）と「^{くじょうでん}九丈殿」（写真手前）といい、年間を通じ様々な神事に用いられます。駐車場へお戻りの方は、こちらを左に曲がり「^{きたみかど}北御門」へ向かう参道を通るのが便利ですが、まがたま池のほとりにある「せんぐう館」の観覧、また「休憩所」をご利用の方は、そのまま真っすぐ表参道の方へお進み下さい。



御饌殿

帰りの参道から見て左側奥、正宮の東北隅に「御饌殿^{みけでん}」があります。ここでは毎日、朝夕の2回大御神にお食事を捧げる「日別朝夕大御饌祭^{ひごとあさゆうおおみけさい}」が、外宮ご鎮座以来約1500年間に亘り行われています。

※御饌殿は御垣内にある為、建物を直接ご覧頂くことは出来ません。



そこから少し進んだ先にある建物は「忌火屋殿^{いみびやでん}」です。毎日の「日別朝夕大御饌祭」を始め、外宮の全ての祭典の神饌（神様の食事）は、前日から斎館に参籠した神職の手によって、ここで調理されています。

内宮



宇治橋

ないくう
内宮の入口である宇治橋前にやって来ました。宇治橋の両端には鳥居が建っていますが、この鳥居の柱は内宮・外宮の正宮の棟持柱むなもちばしらの古材が使用されています。

内宮は外宮とは異なり右側通行で進んで下さい。

※宇治橋について詳しくは「[和僑の代表「宇治橋」](#)」をご覧ください。



宇治橋を渡ると背の低い植物が多い庭園のような風景が広がります。この一帯は「神苑」といい、火除地としての役割もあります。ここには、春秋の神楽祭では奉納舞台が設営され、公開舞楽が行われます。3月下旬または4月上旬には大相撲の^{でずいりしき}手数入式も行われます。



火除橋

神苑を過ぎると「火除橋」があります。正式には「第一鳥居口
御橋^{みはし}」といい、江戸時代に火災予防の為、造られた川に架けられて
いる橋です。いよいよこの橋を渡ると神域へと入ります。



火除橋を渡り、すぐ右手に手水舎があります。

ここで手と口をお清めしてから先に進みましょう。



手水舎の先には第一鳥居があります。



内宮齋館（正門）

第一鳥居をくぐって左手には「齋館」の正門があります。祭典の際にはこの門から神職が列をなして出発し、正宮へと進んでいきます。



齋館の正門の対面に縄で囲われた広い場所があります。ここは「第一鳥居内祓所^{はらえど}」といいます。この場所では奉幣祭^{ほうへいさい}・神御衣祭^{かんみそさい}での修祓^{しゅはつ}（お祓い）や、年間8回の大祓^{おおはらい}・宮中（皇居）での儀式の当日の遙拝などが行われます。



御手洗場

その先に進んでなだらかな石段を下ってみましょう。ここは「御手洗場」と呼ばれています。五十鈴川の清らかな水で手を净めていただくことができます。この場所の石置は徳川綱吉（5代將軍）の生母である桂昌院けいしょういんによる寄進です。



瀧祭神

御手洗場の奥に進むと「^{たきまつりのかみ}瀧祭神」があります。ここには五十鈴川の
水の神様である^{たきまつりのおおかみ}瀧祭大神をお祀りしています。このお社は社殿
がなく、古い時代のお祀りの形を留めています。
また、ここは^{しょかんしゃ}所管社ですが祭典が別宮に準じて行われるなど、非常
に大切にされています。



第二鳥居です。外宮と同様に皇室からお供えされる幣帛^{へいはく}のお祓いはこの鳥居の下で行われます。また、皇族のご参拝時は、ここで下車をされます。



2点とも
内宮神楽殿

第二鳥居の先にある大きな建物が内宮の「神楽殿」です。御神札や御守はここで受けられます。

神宮のご祈祷は、「御饌」と「神楽」の2つの形式があります。

「御饌」は神様にお食事を捧げて祝詞でお願い事をお伝えしますが、「神楽」はこれに加え雅楽を奏で、舞を捧げる、より丁寧な形のご祈祷です。また、式年遷宮の御造営資金のご寄付、御朱印もこちらにお申し出下さい。



神楽殿を越えて先に進むと左側に、「忌火屋殿^{いみびやでん}」があります。この
前面の場所は「祓所^{はらえど}」といい、祭典に先立ち御神前に供えられる
神饌^{しんせん}（お供えの食べ物）と奉仕する神職たちをお祓いする場所
です。



御贄調舎

さらに先に進むと、参道の右手に「御贄調舎^{みにえちようしゃ}」という建物があります。ここでは祭典を執り行う際に、奥にある石畳に外宮の豊受大御神をお迎えし、神饌^{あわび}の鰻を神職が調理する行事が行われます。なお、この建物の裏手の川の対岸付近には、かつて「僧尼拝所^{そうにはいしよ}」という場所があり、僧侶は川を挟んだ位置から参拝をしていたそうです。



さあ、石段を上がるといよいよ**天照大御神**をお祀りする「**正宮**^{しょうぐう}」
です。改めて心身を整えてから進みましょう。なお、ここから上では撮影はできません。



新御敷地

正宮をはじめ、神宮のお宮には「^{ひがし}東御敷地」と「^{にし}西御敷地」があり、20年ごとに社殿が建つ場所が^{うつ}遷ります。



帰りはこちらの分かれ道から西御敷地の北回りで、内宮の第一別宮
「あらまつりのみや荒祭宮」の参拝へと進みましょう。
お時間の無い方は、分かれ道の横にある遙拝所から拝礼して下さい。



御稻御倉

荒祭宮へと進む道の途中、左手に「^{みしねのみくら}御稻御倉」が建っています。ここには^{みしねのみくらのかみ}御稻御倉神をお祀りしており、中には神宮の^{しんでん}神田で収穫された^{しんめいづくり}稲穂が納められており、重要な祭典の際には、ここから下げられたお米でお供え物が調理されます。伊勢神宮に代表される神明造の建築様式を間近にご覧頂ける社殿でもあります。



外幣殿

御稲御倉の先にある建物は「^{げへいでん}外幣殿」といいます。大御神に^{たてまつ}奉られた古い^{しんぼう}神宝などが納められている倉庫です。



荒祭宮

「荒祭宮」に着きました。ここは14別宮の1所であり、内宮の第一別宮です。天照大御神の^{あらみたま}荒御魂をお祀りしています。ここは正宮に次ぐ重要な別宮で、必ず正宮の祭儀に引き続いて祭典が行われ、勅使（天皇陛下のお使い）も祭典を奉仕します。



忌火屋殿

「荒祭宮」の参拝を終えて進むと、表参道の忌火屋殿付近に戻ります。内宮の全ての祭典の神饌は、参籠^{さんろう}した神職の手によってここで調理されています。調理には「忌火^{いみび}」という清浄な火を鑽^きり出して用います。



忌火屋殿付近には内宮の所管社が3箇所あります。

ここは「由貴御倉」といい、**由貴御倉神**をお祀りしています。かつてあった、神様へのお供え物を納めて置く倉庫の守護神です。



御酒殿

ここは「御酒殿」です。お酒の神様、御酒殿神をお祀りしています。重要な祭典で造られる「白酒」や「黒酒」を納める行事や、「御酒殿祭」という祭典が行われます。



四至神

ここは「^{みやのめぐりのかみ}四至神」です。社殿はありませんが、域内の境界を守護する神様をお祀りしています。
足を踏み入れたり手をかざすなどの行為は、神様に失礼ですから慎みましょう。



風日祈宮橋

神楽殿まで戻り、対面側に進むと14別宮の1つ「風日祈宮」への参道にかかる総木造の和橋「風日祈宮橋」があります。「風宮橋」とも呼ばれ、全長約46m、幅約5m。檜の敷板307枚、橋脚（ケヤキ材）15本から成り立っています。この橋も宇治橋同様、20年に1度架け替えられます。



風日祈宮

風宮橋を渡ると「風日祈宮」があります。外宮の「風宮」と同じく
風雨を司る^{しなつひこのみこと}級長津彦命・^{しなとべのみこと}級長戸辺命をお祀りしています。



内御厩



外御厩

帰りの参道には「御厩」が2箇所あります。ここには皇室から奉納された2頭の神馬^{しんめ}が原則としてそれぞれ日中、交互に牽き立てられています。



参集殿

ここは「^{さんしゅうでん}参集殿」といい、参拝者休憩所です。
ここには能舞台があり、年間を通して各種奉納行事がとり行われます。



大山祇神社

帰りはそのまま宇治橋を渡らずに、反対側へと進んでみましょう。
舗装された道をしばらく行くと、内宮の所管社が2社あります。

こちらは「^{おおやまつみじんじゃ}大山祇神社」です。^{おおやまつみのかみ}大山祇神をお祀りしています。
神域の奥に広がる^{かみじやま}神路山の入口にご鎮座する山の守り神です。



子安神社

こちらは「^{こやすじんじゃ}子安神社」です。大山祇神の娘神にあたる、
^{このはなさくやひめのみこと}木華開耶姫命をお祀りしています。「子安」とは「安産」の意味
で、信仰の篤いお社です。

倉田山

ここまで外宮と内宮の域内をご案内してきましたが、外宮から御幸道路^{みゆきどうろ}を通して内宮へ向かう途中に「倉田山」^{くらたやま}と呼ばれる一帯があり、伊勢神宮の文化施設があります。伊勢神宮のことをより詳しく知りたい方は是非訪れてみてはいかがでしょうか。



神宮徴古館^{ちようこかん}

明治42年に日本最初の私立博物館として財団法人「神苑会」^{しんえんかい}により創設され、明治44年に神宮に献納されました。現在は伊勢神宮の総合的な博物館として、歴史・祭典・式年遷宮についてなどを詳しく

紹介する数多くの貴重な資料を展示しています。中でも実際に神様に捧げられていた神宝しんぼうの数々は、ここでしか目にすることができません。



神宮農業館

明治24年に「神苑会」が外宮前に創設し、その後移転、徴古館と同様に明治44年に伊勢神宮の施設となりました。

「自然の産物がいかに役立つか」をテーマとして、農業・林業・水産業などが先人の知恵と工夫により発展してきたことを貴重な資料を展示し紹介します。

——— 神宮徴古館・神宮農業館 2館共通 ———

【開館時間】 午前9時～午後4時30分
(但し入館は午後4時まで)

【休館日】 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)

【入館料】 一般 ￥300 大学生・高校生 ￥150
小・中学生 ￥100

※各団体割引あり(30名以上・100名以上)



式年遷宮記念神宮美術館

第61回式年遷宮を記念して、平成5年10月1日に開館しました。
その時代を代表する秀作を収め、将来的には我が国の美術史を展望
できるという「美の殿堂」を目指しています。

【開館時間】 午前9時～午後4時30分
(但し入館は午後4時まで)

【休館日】 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)

【入館料】 一般 ¥500 大学生・高校生 ¥300
小・中学生 ¥200

※各団体割引あり(30名以上・100名以上)

——**神宮徴古館・神宮農業館との3館共通券**——

【入館料】 一般 ¥700 大学生・高校生 ¥400
小・中学生 ¥250

※各団体割引あり(30名以上・100名以上)



倭姫宮

倉田山には14別宮の1つ「倭姫宮」があります。
ここには天照大御神を伊勢の地にお導きした倭姫命やまとひめのみことがお祀りされています。

各所要時間の目安



外宮参拝（約1時間）

ご祈禱を申込む場合は
+30分程
見込みましょう。



せんぐう館見学

見学の仕方にもよりますが
+約1時間～2時間を見込みましょう。



倉田山



神宮徴古館・農業館見学
（約1時間～1時間半）

神宮美術館見学（約1時間）

倭姫宮参拝（約30分）



内宮参拝（約1時間半）

ご祈禱を申込む場合は
+30分～1時間程見込みましょう。

伊勢神宮の 125





一般的に、全国の神社にはひとつのお宮にひとつの名称がつけられています。もちろん、伊勢神宮においても同様です。しかし、伊勢神宮と呼ぶ時には、正確にいうとひとつのお宮のことを意味しません。

例えば、おはらい町を通り、宇治橋を渡り、長い参道を進んだ先にある、**天照大御神**への祈りを捧げるお宮は、「^{こうたいじんぐう}皇大神宮」という名称です。



「皇大神宮」北側には、天皇陛下の使いである勅使も参向される尊
いお宮、「^{あらまつりのみや}荒祭宮」が鎮まります。



「内宮」の域内には、風の神様を祀る「^{かざひのみのみや}風日祈宮」というお宮もあります。



「内宮」から高速道路を使って車で30分程進んだ原生林の奥深く、
宮川上流域には「瀧原宮」というお宮があります。

これらのお宮は全て伊勢神宮に含まれます。

その他、伊勢市を中心に周辺の志摩・松阪・鳥羽の4市、^{わたらい}度会・^{たき}多気の2郡にわたり点在している、大・中・小の様々なお宮の正式な総称が「神宮」なのです。

その数はなんと**125**。

伊勢神宮とは、**125**あるお宮の集合体なのです。

○125社の神様

125のお宮に祀られる神様はそれぞれ異なります。

天照大御神ゆかりの神様、自然の神様など、その性格・種類は様々です。



右より月読荒御魂宮・月読宮・伊佐奈岐宮・伊佐奈弥宮

天照大御神の御兄弟にあたる^{つきよみのみこと}月読命を祀る「^{つきよみのみや}月読宮」、と月読命の荒御魂（神様の特に活動的な働きの部分）を祀る「^{つきよみあらみたまのみや}月読荒御魂宮」、天照大御神の御親にあたる^{いざなぎのみこと}伊弉諾尊、^{いざなみのみこと}伊弉冉尊を祀る「^{いざなぎのみや}伊佐奈岐宮」、^{いざなみのみや}「伊佐奈弥宮」は伊勢市内にあります。



土宮



風宮

風、山、川などの自然の神様もたくさんお祀りされています。



「皇大神宮」ご創建にゆかりの深い、^{やまとひめのみこと}倭姫命もお祀りされています。

○125社の区分

125のお宮は、それぞれに位置づけがなされています。

大きく分けると、正宮・別宮・摂社・末社・所管社の5つに分けられます。

正宮とは、「皇大神宮（内宮）」・「豊受大神宮（外宮）」の2宮です。

別宮とは、正宮のご由緒と古くから深い関わりのある神様をお祀りする格式の高い14のお宮です。



摂社とは、延長5年（927）に法令などを定めた『延喜式』に記載があるお宮です。



内宮摂社
朝熊神社（右）朝熊御前神社（左）
朝熊神社は内宮摂社の中でも、
特に第一摂社として尊ばれている



内宮摂社 朝熊神社遠景

末社とは、『延喜式』には記載がないものの、延暦23年（804）の『延暦儀式帳』に記載のあるお宮です。
このように、摂社・末社は小さなお社ではありますが、いずれも千年以上の歴史をもっています。



かがみのみや
内宮末社 鏡宮神社

鏡宮神社は五十鈴川と朝熊川の
合流地点に位置している



所管社とは、正宮と別宮のお祭りに直接関わりのあるお宮です。井戸の神様、お酒の神様、塩の神様、米の神様、麻の神様、絹の神様など、衣食住に関わる生活に身近な神様が多いのも特徴です。



正宮2所、別宮14所、摂社43社、末社24社、所管社42社、この125全てで伊勢神宮です。

伊勢神宮の長い歴史において、これら様々な神社が関連しあって祭祀が営まれてきました。

20年に1度の神宮式年遷宮では、内宮・外宮の正宮、14ある別宮すべての社殿が新しくされ、また、引き続き109ある摂社・末社・所管社においても、順次社殿の建て替えや修理などが行われます。

神様の お食事





○神様のお食事

神様にお供えするお食事を「神饌^{しんせん}」といいます。

私たちは日々神々のお恵みを受けて暮らしています。その神々へ感謝の気持ちを表す為に、私たちの遠い先祖は、生きていく上で最も大切なお食事を神様にお供えすることで、真心を捧げてきました。

現在でも様々な祭典では、「献饌^{けんせん}」といって、神饌を御神前にお供えすることが重要となっています。

伊勢神宮の神饌は時代によって多少の変化はありましたが、古来ほぼ変わることなく現在に至っております。その中で、特に重要な御料品（お米、御塩、野菜、果物、鰻^{あわび}など）はそれぞれ調進所を設けて、伊勢神宮で直接その生産、調製にあたっています。

それでは、詳しく見てみましょう！



神宮神田



しんでんおたうえはじめ
神田御田植初

○^{ごりようまい}御料米

伊勢神宮には、神様にお供えするお米を作る田んぼがあります。その田んぼを「^{じんぐうしんでん}神宮神田」といいます。神宮神田は伊勢市^{くすべちやう}楠部町にあり、約3万平方メートルの作付面積を有し、伊勢神宮の1年間の祭典でお供えされる^{うるちまい}粳米と、^{もちまい}糯米を栽培しています。ここで収穫されたお米は、^{いい}飯（お米を蒸したもの）や餅として、御神前にお供えされます。

神宮神田の起源は古く、皇大神宮（内宮）ご創建に功績のあった、皇女・倭^{やまとひめのみこと}姫命が「御料田」としてお定めになったと伝えられています。

なお日本人の主食であるお米は、伊勢神宮だけでなく全国の神社で、最も重要な神饌とされています。



御塩焼所



御塩焼固

○御塩

伊勢市二見町西にある御塩浜は、祭典に用いる御塩を奉製する為に必要な鹹水（塩分濃度の高い潮水）を採取する為の入浜式塩田です。古式のまに、夏の土用に濃い塩水を取り、鉄の平釜で焚きあげて荒塩とし、出来上がった荒塩は俵に詰められ、御塩倉で約2ヶ月間余分な水分や苦汁を落としします。

神嘗祭を目前に控えた10月5日、御塩焼固という仕上げの作業を行うにあたり、作業の安全と塩業の発展をお祈りする御塩殿祭が、御塩浜から東1km 伊勢市二見町庄にある「御塩殿神社」にて執り行われます。御塩焼固は荒塩を三角錐の器に入れて竈で焼き固める作業で、10月5日からの5日間で計100個焼き固められます。この作業は3月上旬にも行われ、堅塩計200個が、年間の祭典で使用されます。



○野菜・果物

伊勢市二見町にある^{じんぐうみその}神宮御園では、野菜・根菜・果物類を栽培しており、その種類は50種類以上に及びます。作付面積はおよそ2万㎡あります。伊勢神宮では各祭典によって、野菜・果物の供える種類や寸法が定められています。

また、御園では毎年春分の日に御園祭が執り行われ、御料作物の豊^{みそのさい}かな稔りと、作業に携わる人々の安全をお祈りしています。



御料鰯調製所



左が身取鰯、右が玉貫鰯

あわび 鰯

伊勢神宮の神饌の代表は鰯で、鳥羽市^{くさぎちょう}国崎町にある
神宮御料鰯調製所^{じんぐうごりょうあわびちようせいしょ}において調製されています。通常「あわび」
は、「鮑」という漢字が使われますが、伊勢神宮では伝統的に
「鰯」の字を用いています。

この地は伝承によると、内宮ご鎮座の時に、皇女・倭姫命が神饌の
供給地を求めて志摩国^{しまのくに}を巡られた際に、この地から鰯を^{たてまつ}奉るよう
に定められたとあり、その伝統が現在まで受け継がれています。

ここでは神宮の最も重要な祭典である神嘗祭、6月・12月の月次祭^{つきなみさい}
にお供えされる身取鰯^{みとりあわび}や、玉貫鰯^{たまぬきあわび}と呼ばれるいわゆる熨斗鰯^{のしあわび}が調
製されており、その作業はそれぞれの祭典の直前に行われています。



○^{ひだい}乾鯛

乾鯛とは、生鯛の内臓を取り除いて塩水につけた後に、西風の強い日に天日干ししたもので、愛知県知多郡南知多町の^{しのじま}篠島にある、^{ごりようひだいちようせいじよ}御料干鯛調製所で作られています。ここには他に、乾燥所や貯蔵庫などの施設もあります。祭典によってお供えされる乾鯛の大きさは異なりますが、1年間に約500尾お供えされます。



土器調製所



祭典時使用される土器類

○土器

ここで紹介する土器とは、主に神饌を盛る食器を指します。

伊勢神宮の祭典に用いられる土器は素焼きで、すべて多気郡明和町^{めいわちょう}の神宮御料土器調製所で奉製されています。この地域は良質の粘土に恵まれている為、内宮ご鎮座当時から神宮で使われる土器を調製してきたと伝えられています。

6寸・4寸・3寸の土器、御盃台^{みさかづきだい}、御箸台^{みはしだい}、酒壺、水碗などが年間を通じて調製され、その数は約6万にも及びます。神宮の土器類は1度祭典に使用されると、その後は埋められ、土に還ります。

「しき・ねん・
せん・ぐう」?



式年遷宮の説明



左上: 正殿（内宮）

右上: 御装束神宝 太刀の調製

左: 神宮徴古館には撤下の
神宝が展示されています

「^{しきねん}式年」...ある定められた年。

「^{せんぐう}遷宮」...新しい社殿をお建てして神様にお^{うつ}遷りいただく。

伊勢神宮では20年に1度、^{しょうでん}正殿をはじめ^{みかきうち}御垣内にある全ての建物を造り替え、また社殿の中に納められている^{おんしょうぞくしんぼう}御装束神宝も古式に則り新たに作り替えられます。

神様のお召し物である御装束は525種、1085点あります。また、神様の調度品にあたる神宝は、武具・馬具・楽器・文具など189種、491点あります。

式年遷宮は20年に1度、全てを新しくし、神様に新しいお宮
(新宮)にお遷りいただく大変重要な神事です。

その歴史は古く飛鳥時代、第40代の天武天皇の御発意により、第41代持統天皇の4年(690)に第1回目の式年遷宮が執り行われました。その後、戦乱等国内情勢の都合により一時中絶があったものの多くの困難を乗り越え、1300年もの永きにわたって今日まで連綿と受け継がれてきました。

伊勢神宮で20年に1度、建物の造り替え等を繰り返し行うということは、後世へ精神や技術を伝承し続けることにより永続性が生まれ、先人のこころが若々しく生き続けるという「常若」の願いが込められているのです。

遷宮行事一覧

せんぐうぎょうじ やまぐちさい このもとさい せんぎょ ほうへい みかぐら
遷宮行事は山口祭、木本祭に始まり遷御、奉幣、御神楽に至るまで
約30に及ぶ祭典・行事が行われます。その内12の主要な祭典につい
ては、日時等につき「御治定」(天皇陛下のお定め)を仰ぎます。
また、伊勢の地元民を中心とした国民参加の行事として「御木曳行
事」・「御白石持行事」が行われます。日程については先例に倣
い、「遷御」の儀齋行を目指して準備をとり進めます。



山口祭

やまぐちさい 山口祭

遷宮の御造営にあたり最初に執り行われる祭典です。御造営用材を伐採する御杣山に坐す神を祀ります。

御杣山は時代により移り変わりますが、古例のまま内宮は神路山、外宮は高倉山の山麓で行われます。

このもとさい 木本祭

新殿御床下にお建てする心御柱の御料木を伐採するのにあたり、御木の木本に坐す神を祀ります。深夜、両宮域内の山中で行われ、「物忌」と称する子供が忌斧にて御料木奉伐の儀を行います。御料木は新殿完成時まで丁重に保管されます。



御杣始祭

^{みそまはじめさい} 御杣始祭

^{みそまやま}御杣山で伐採作業を始めるにあたり、まず^{ごしんたい}御神体をお納めする
「^{みひしろ}御樋代」の御料材を伐採する祭典。両宮の御料木が立つ祭場で安全を祈願し、御料木を「^{みつおぎ}三ツ尾伐り」という古くからの作法で伐り倒します。



御槌代木奉曳式

御槌代木奉曳式

御杣山で伐採した御槌代の御料木は、各地で盛大な歓迎を受けながら数日をかけて伊勢に運ばれます。これを両宮域内に曳き入れる儀式です。到着した御料木は、内宮は五十鈴川を遡り風日祈宮橋付近から神域に曳き揚げられ、外宮は外宮北御門から神域に入り、それぞれ五丈殿前に安置されます。



御船代祭

みふなしろさい 御船代祭

みひしろ
御槌代をお納めする「御船代」の用材を伐採する祭典です。両宮域
みややまさいじょう内に宮山祭場を定め、このもと木本の神を祀り、「ものいみ物忌」と呼ばれる子供
が草木を刈りはじめ、こたくみ小工（宮大工）が伐採の式を行います。



御木曳初式

おきひきぞめしき 御木曳初式

伊勢市内に住む旧^{きゅうしんりょうみん}神領民によって、御造営の用材を両宮に^{ほうえい}奉曳する伝統行事「御木曳」の始めに行われる祭典です。



木造始祭

こづくりはじめさい 木造始祭

御造営の工事開始に際して作業の安全を祈り行われる祭典です。五丈殿で饗膳きょうぜんの儀を行い、安置してある御料木ごりょうぼくに小工いみおのが忌斧を打ち入れます。



御木曳行事（第一次）

おきひきぎょうじ 御木曳行事（第一次）

旧神領民が2ヶ月間にわたり御用材を両宮に曳き入れる盛大な行事です。旧神領地の町内総出で、数日前に揃いの法被姿で二見浦で心身を清め行事に臨みます。内宮の領民は木轎きざりに御用材を載せ五十鈴川で「川曳」を行い、外宮の領民は御木曳車おきひきぐるまで「陸曳」を行います。期間中、伊勢の街は勇壮な掛け声と木遣音頭きやりおんどに包まれます。



かりみひろぎばっさいしき 仮御樋代木伐採式

「^{せんぎよ}遷御」の際、御神体を納める「^{かりみひろ}仮御樋代」の御用材を伐採するに
あたり^{このもと}木本に^ま坐す神を祀り、^{いみおの}忌斧を入れる式です。



御木曳行事（第二次）

おきひきぎょうじ
御木曳行事（第二次）



ちんちさい 鎮地祭

新宮を建てる新御敷地で執り行われる最初の祭典で、御造営作業の安全を祈り新宮の^{おおみやどころ}大宮地に^ま坐す神を祀ります。



宇治橋渡始式

うじばしわたりはじめしき 宇治橋渡始式

内宮の入り口に架かる宇治橋は総木造の和橋で、伊勢の神宮の象徴ともなっており、遷宮の度に架け替えが行われます。橋の守護神である「饗土橋姫神社」^{あえどはしひめじんじや}での祭典に続き、古式に則り^{のつと}渡り始めが行われます。「渡女」^{わたりめ}を先頭に全国から選ばれた3世代揃った夫婦に続いて、全国の関係者や市民などが新しい橋を渡りお祝いし、多くの参拝者で賑わいます。



りっちゅうさい
立柱祭

新殿建築の初めに御柱を立てる祭典で、素襖烏帽子姿の小工が四組に分かれて、それぞれの御柱の木口を木槌で打ち固めます。



御形祭

ごぎょうさい 御形祭

「御形」^{ごぎょう}とは正殿東西の柱にある装飾の一種で、それを穿^{うが}つ祭典です。御形は「御鏡形」^{みかがみがた}とも称されます。立柱祭に続いて行われます。



じょうとうさい 上棟祭

新殿の棟木^{むねぎ}を上げる祭典。まず正殿が正しい位置にあるかを測量する「丈量儀^{じょうりょうのぎ}」があり、続いて棟木から延ばされた綱を引いて棟上げの所作をし、「千歳棟^{せんざいとう}、万歳棟^{まんざいとう}、曳々億棟^{えいえいおくとう}」の掛け声と共に屋上の小工が御棟木を木槌で打ち固めます。



檐付祭

のきつけさい
檐付祭

新殿の屋根の萱を葺き始める祭典です。



いらかさい
蕨祭

新殿の屋根の葺き納めの祭典で、^{いらかおおい}蕨 覆などの金物を打ちます。



御白石持行事

おしらいしもちぎょうじ 御白石持行事

完成した新殿が建つ御敷地に敷く白石を奉獻する行事です。
御木曳行事と同様に、旧神領民が揃いの法被姿で「浜参宮」の後、
内宮・外宮それぞれに御白石を運び、御敷地に奉獻します。



御戸祭

御戸祭

新殿に御扉を取り付ける祭典。御扉が付くことは建物の完成を意味します。建物の守護神である^{やふねのおおかみ}屋船大神を祀ります。



御船代奉納式

みふなしろうほうのうしき
御船代奉納式

御神体をお納めする器「御船代」を殿内に納めます。



あらいきよめ
洗 清

新殿竣工にあたり殿内を清めます。

しんのみはしらほうけん
心御柱奉建

心御柱は正殿の床下に建てられる特別な柱で、忌柱・天ノ御柱・
いみばしら あめのみはしら
あめのみはかりのはしら天ノ御量柱とも呼ばれます。心御柱の奉建は遷宮諸祭の中でもひととき重んじられてきた深夜の祭典です。



こつきさい 杵築祭

新殿の竣功に際し、御敷地である大宮地を撞き固める祭典です。
祭典に先立ち、五丈殿で饗膳の儀を行い、新殿の周りを巡り、古歌
を唱えながら柱の根元を白杖で撞き固めます。



ごちんさい
後鎮祭

新殿の竣功に際し、大宮地の平安を祈ります。



おんしょうぞくしんぼうとくごう
御装束神宝読合

天皇陛下より^{おおみかみ}**大御神**に献ずる御装束神宝の式目を新宮の四丈殿において読み合わせる儀式です。



かわらおおはらい 川原大祓

「^{かりみひしろ}仮御樋代」・「^{かりみふなしろ}仮御船代」や御装束神宝をはじめ、遷御に奉仕する神宮祭主以下の奉仕員を「^{はらいしょ}川原祓所」で祓い清めます。



御飾

おかざり
御飾

遷御当日、殿内を装飾して準備をします。



遷御

せんぎよ 遷御

大御神が本殿から新殿へとお遷りになる重要な祭典です。100名を超える奉仕員は、「召立^{めしたて}」にしたがって御装束神宝を手にして整列、天皇陛下の定められた時刻に大御神は大宮司・少宮司・禰宜^{ほうたい}に奉戴され本殿から出御^{しゅつぎよ}し、新殿へ入御^{じゅぎよ}されます。天皇陛下には遷御に際して勅使を遣わされ、また出御の時刻には宮中の神嘉殿^{しんかでん}の前庭からはるかに伊勢のかたを御拝^{ぎよはい}されます。



おおみけ 大御饌

遷御翌日の早朝、新殿において初めて大御神におおみけ大御饌といわれる神饌をたてまつ奉ります。



ほうへい
奉幣

天皇陛下から奉られる幣帛^{へいはく}を奉納します。遷御と共にひとときわ重んじられてきた祭典です。



古物渡

こもつわたし
古物渡

古殿内の神宝類を^{さいほうでん}西宝殿に移す儀式です。



^{みかぐらみけ} 御神楽御饌

「御神楽」を行うに先立ち、大御饌といわれる神饌を奉ります。



御神楽

みかぐら 御神楽

天皇陛下には遷御の後、神宮に宮中の^{がくし}楽師を遣わされ御神楽および^{ひきよく}秘曲をご奉納になります。勅使・神宮祭主以下が四丈殿内の座に着き、^{ていりよう}庭燎（かがり火）の明りがゆれる中、深夜まで御神楽が奏でられます。

和橋の代表「宇治橋」



宇治橋とは、内宮の表参道入口、五十鈴川の清流に架かる、日本を代表する和橋（日本風の橋）の一つです。
全長101.8メートル、橋幅8.42メートルの総木造の橋で、宇治橋を渡ればそこはもう聖なる地。天照大御神のもとへ参拝者を誘う架け橋であります。

神宮式年遷宮では、なんとこの宇治橋までも新しく架け替えられます。

それでは、宇治橋の架け替えの様子をご覧ください。



1：宇治橋^{しゅうぞうきこうしき}修造起工式

架け替え工事に着手するに当たって、宇治橋前にご鎮座する
 「^{あえどはしひめじんじゃ}饗土橋姫神社」に工事の安全を祈り、橋杭を打ち固める祭典を行います。



2：仮橋修祓^{かりばししゅはつ}

架け替え工事の期間中、参拝者が渡る為の仮橋が宇治橋の少し下流に架けられます。

仮橋が架けられましたら、まず橋を清め、参拝者の安全な往来を祈る修祓が行われます。修祓とはいわゆる「お祓い」のことです。宇治橋が解体されるまでのしばらくの間は二本の橋が並ぶという大変珍しい光景を目にすることができます。



3：宇治橋渡^{わたりおさめ}納

全国から多数の参拝者が集まり、名残を惜しみ、また、20年間の感謝を込めつつ渡り納めを行います。



4：宇治橋^{まんどぬさほうげしき}万度麻奉下式

いよいよ解体が始まることになります。

渡り納めの翌日、まず初めに全部で16基ある^{ぎぼし}擬宝珠のうち、下流側西詰めから2つ目の擬宝珠の中に納められている万度麻を取り出す儀式を行います。

万度麻とは、1万回お祓いを行ったのと同じ意味を持つ御神札で、橋の安全の祈りが込められているものです。



5：解体

宇治橋の荘厳な姿とは暫しのお別れです。
新しい宇治橋ができるまで、参拝者は仮橋を渡ります。



6：基礎工事、橋脚工事

橋を支える基礎、橋脚の工事を行います。

この工事は水の少ない渇水期を選び行われ、川の流路を何度か変えながら慎重に行います。時には思わぬ大雨による増水に悩まされることもあります。



7：敷板敷設^{しきいたふせつ}

人が歩く面に敷き詰められる616枚の敷板を敷く作業を行います。船大工が船底を張るときに用いる伝統的な技法を用い、一つ一つの敷板の接合面を叩きながら慎重に固定していきます。金槌で叩いてへこませた部分は一旦収縮し、接合後に水分を吸収すると膨張する為、より強く木と木が密着し、橋脚への水漏れを防ぎます。



8：高欄^{こうらん}取り付け

いよいよ工事の山場、高欄の取り付けです。

高欄とは「欄干^{らんかん}」のことで、あらかじめ工作場で作った部材を橋の上で組み立て、敷板^{しきいた}に空けた穴に同時に落とし込みます。

組み立ての際には、釘を一切使わず、凹凸の切り組みをもとに組み立て、最後に擬宝珠を取り付け完成となります。



9 : 宇治橋渡 始 式

起工式から1年3ヶ月余、新しく生まれ変わった宇治橋の完成を祝い、渡始式が行われます。渡り始めに先立ち、宇治橋の守り神である「饗土橋姫神社」^{あえどはしひめじんじや}で宇治橋を渡る参拝者の安全と神様への感謝を捧げる祭典を行い、その中で祈りをこめた新しい万度麻が擬宝珠の中に納められ、橋と参拝者の安全を祈念いたします。そしていよいよ渡り始めです。渡り始めの先頭に行く渡女^{わたりめ}は、旧神領から長寿の^{おうな}おうなが選ばれます。以下、工事に携わった橋工^{はしこう}、大宮司以下の神職、全国から選ばれた3世代夫婦数十組と続きます。渡始式が終わると、一般の渡り始めが始まり、全国から集まった大勢の参拝者が新しい橋を渡し、竣功をお祝いたします。



このようにして、宇治橋も新しく生まれ変わり、次の架け替えまでの間に、1億人以上の方々を神域へと誘います。

伊勢の 豆知識



神主さんが教えたい！

まめ知識

神主さんが皆さんに
ためになる、自慢できる
とっておきの「まめ知識」を
紹介します！



まめ知識 ～その1～

宇治橋架け替えはなぜ遷宮の4年前？

宇治橋は遷宮に先立ち4年前に架け替えられています。しかし、明治以降は遷宮の年に架け替えられる例となっていました。なぜ、架け替えは4年前に変わってしまったのでしょうか？

第59回目の式年遷宮は、当初昭和24年（1949）に予定され、昭和16年（1941）からその準備が始まり、戦時中も着々と進められていました。

しかし、昭和20年（1945）8月に戦争が終結。国内は疲弊し、国民の多くは、日々の生活がやっとという状態でした。この状況を御覧になられた昭和天皇は昭和20年12月に「式年遷宮の延期」を決定されます。

時が過ぎ昭和24年。本来遷宮が行われるはずであった年を迎え、心ある人たちから「祖先から受け継がれてきた式年遷宮の伝統を絶やしてはならない。遷宮を行うのはまだ難しいが、せめて入口の宇治橋だけでも架け替えようではないか。」との声があがりました。工事の経費もままならない中、苦心の末ようやく橋の架け替えがなされ、渡始式が盛大に執り行われたのです。

このことがきっかけとなり、戦後の混乱で延期されたままとなっていた式年遷宮を再度復活させようとの全国的な動きがおこり、遷宮の経費を集める為の奉賛会も設立されました。多くの人々の力によって、当初遷宮が予定されていた宇治橋架け替えの年から遅れること4年後の昭和28年（1953）秋、内宮・外宮とも遷宮はみごとに執り行われました。

当初、神宮では昭和29年（1954）に内宮、昭和32年（1957）に外宮の遷宮を執り行う予定で、奉賛会による募金を開始しましたが、あの物資が欠乏し大変だった時代に、これだけの短期間で遷宮が復興できたのは、多くの人々のお伊勢さまに対する信仰心の現れと、遷宮という我が国の精神・文化の伝統を次の世代に伝えていかなければならないとの強い思いがあったからにほかなりません。

これ以降、宇治橋の架け替えと遷宮はそのまま4年ずれて行われることとなりましたが、そこには、終戦後、日本の伝統文化を守ろうとした人たちの熱い気持ちが隠されているのです。

まめ知識 〜その2〜

御幸道路は、旧国道1号線だった

みゆきどうろ

御幸道路は外宮・内宮間を結ぶ道路の通称で、御成街道とも呼ばれます。かつて外宮から内宮に向かうには山越えの険しい道しかありませんでした。その為、3年の工期をかけて皇族ご参拝用として新たに自動車も通行できる広い道路が造られ、明治43年（1910）3月に開通しました。

現在国道1号線は東京大阪間ですが、かつて大正8年（1919）の道路法制定より、終戦後まで、東京日本橋から御幸道路を經由し、内宮の宇治橋前までが国道1号線に指定されていました。かつて、お伊勢参りでにぎわった街道筋が国道となったわけです。

御幸道路界隈^{かいわい}には神宮の博物館である徴古館をはじめ、皇學館大学や御師の館の門、別宮月読宮など神宮ゆかりの場所が点在しています。

まめ知識 ～その3～

斎王とはどんな方？

^{さいおう}斎王とは、かつて伊勢神宮に奉仕する為、はるばる都から遣わされた未婚の女性皇族のことです。

伝承では第10代^{すじんてんのう}崇神天皇の皇女^{とよすきいりびめのみこと}豊鍬入姫命に始まるとされ、後醍醐天皇の時代に兵乱で制度が廃絶するまで1300年間、76方の斎王が天照大御神にお仕えになりました。

斎王は選ばれた後、京都の^{ののみや}野宮での3年間の参籠を経て、伊勢へと向かわれます。

普段は^{さいくう}斎宮（現在の三重県明和町）に住まれ、三節祭と呼ばれる6月の月次祭、10月の神嘗祭、12月の月次祭の時には神宮におもむき、祭典に奉仕されました。

まめ知識 〜その4〜

祭主とはどんな方？

じんぐうさいしゅ 神宮祭主とは、おおみてしろ 大御手代、すなわち天皇陛下の御代理として伊勢神宮にお仕えする方です。

天皇陛下の思し召しにより、皇族もしくは元皇族であった方より選ばれます。

2月の祈年祭、6月の月次祭、10月の神嘗祭、11月の新嘗祭、12月の月次祭の年5回の重要な祭典に奉仕されます。

まめ知識 ～その5～

伊勢街道ってどんな道？

皆さん「街道」という言葉をご存知でしょうか？一般的に場所と場所をつなぐ道路・道の事を指します。

江戸（東京）の日本橋を起点とする五街道（東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道）が有名で、江戸時代に徳川家康が整備し始めて4代将軍家綱公の時代に基幹街道として定められました。この五街道の他にも本街道と呼ばれる戸佐倉街道、中国路などがありますが、その中に伊勢^{いせさんぐうかいどう}参宮街道というのがあったのをご存知でしょうか。

伊勢街道・伊勢本街道・参宮街道とも呼ばれ伊勢音頭にも歌われた「伊勢に行きたい伊勢路がみたい。たとえ一生に一度でも」の歌のとおり当時多くの人が伊勢神宮への参拝の為に通った道の事をいいます。

五街道の主要な道であった東海道に次いで交通量が多かったといわれ、様々な文化や情報などの行きかう街道として有名で、東海道、伊勢別街道、伊賀街道、和歌山街道など様々な街道と合流する街道だった為、伊勢神宮の参拝の方以外にも、旅人や地元の人にとっても重要な街道でした。

まめ知識 ～その6～

常夜燈ってどんなもの？

常夜燈とは、神社への献燈、もしくは道行く人の為の道標的なものとして建てられた燈籠のことをいいます。

特に、伊勢神宮への献燈、もしくは遙拝する為のもの、参宮する人への道標的なものとして建てられたものを「参宮常夜燈」や「伊勢燈籠」ともいいます。

それらは街道沿いであったり、集落の中心地であったりした場所に建てられており、東海地域や近畿地域に数多く存在します。

現在でも夜になると燈を掲げられる燈籠や、毎年決まった時期にお祭りが行われる燈籠も残っています。

因みに、山形県や佐賀県の一部には、伊勢信仰碑ともいえる燈籠ではない石碑が多く見られます。

まめ知識 〜その7〜

宮川ってどんな川？

宮川は三重県と奈良県の県境にある大台ヶ原を水源とし、大内山川や一之瀬川などと合流し伊勢湾に注ぐ一級河川で、長さ約91km、三重県内最大の川です。水質が良好であることでも知られており、一級河川水質調査で幾度となく1位に輝いています。

古くより伊勢神宮との関わりも深く、豊受大神宮（外宮）の禊川であったことから、以前は「豊宮川」と呼ばれていましたが、「豊」の字が略され現在の「宮川」の名がついたといわれています。

また、神宮式年遷宮の「御白石持行事」で使用される石は、宮川の河原から採集され、内宮・外宮の正宮に敷き詰められます。

宮川は昔からよく氾濫し、大水害も起こしてきましたが、大いなる自然の恵みも人々に与えています。治水工事も進み、現在流域では公園や運動場が整備され多くの人達が利用し、またお米やお茶をはじめ、沢山の農産物が栽培されています。



宮川の渡し

まめ知識 ～その8～

伊勢弁ってどんなもの？

「伊勢」という地名を聞くと、ほとんどの皆さんは伊勢神宮がご鎮座している伊勢市を思い浮かべられると思います。しかし、本来は現在の三重県北部に位置する桑名市から南部の伊勢市までの広い範囲が「伊勢国^{いせのくに}」でした。

三重県にはこの他にも豊かな海の幸で知られる「志摩国^{しまのくに}」、忍者でも有名な「伊賀国^{いがのくに}」があり、また伊勢から和歌山県の熊野に至る熊野街道沿いは東紀州と呼ばれ、江戸時代までは紀州藩に所属していました。

このように三重県内には様々な風土と文化を持つ国々に分かれていましたが、このうち伊勢国で話されているのが「伊勢弁」と呼ばれる方言です。

基本的には関西弁の系統に属し、京阪神式のアクセントをもつとされています。

伊勢弁は、語尾に「な」や「に」をつけて話されることが多いことも特徴のひとつで、山の手言葉の「ね」に当たる部分は「な」となります。その為「伊勢の“な言葉”」と呼ばれることもあります。

伊勢弁 一例

「あも」 → 「御餅」

「行きしな」 → 「行く途中」

「いろう」 → 「いじる」

「えらい」 → 「疲れた」

「おたい」 → 「私」

「おおきんな」 → 「ありがとう」

「車がつむ」 → 「道路が渋滞する」

ごうわ
「業湧く」 → 「腹が立つ」

「ちゃっと」 → 「すぐに、早く」

「ちょける」 → 「ふざける」

「ててこましい」 → 「甲斐甲斐しい」

「でんしんぼうぐ」 → 「電信柱」

「つる」 → （主に2人以上で）「物を持つ」

「ほる、ほったる」 → 「捨てる」

「やぶる」 → 「壊す」

まめ知識 〜その9〜

伊勢うどんってどんなもの？

伊勢うどんとは、たまり醤油に鰹節やいりこ、昆布等の出汁を加えた、黒く濃厚なつゆ（タレ）を、軟らかく煮た極太の麺に絡めた物をいい、徹底的にコシをなくした極太麺と濃厚なタレが特徴です。江戸時代以前よりこの地の農家の人達が食べていた地味噌のたまりをつけたうどんを食べやすく改良したものであるといわれています。

浦田町橋本屋7代目、小倉小兵がお蔭参りの参詣者へとうどん屋を開業したのが伊勢うどん屋の最初といわれています。

ゆで続けている為、すぐに提供できること、また、汁がない為、すぐに食べ終わることができます。今でいうファーストフードではないでしょうか！また長旅で疲れの溜まっている人向けの、消化が良い食事でもありました。

まめ知識 〜その10〜

宇治山田ってどんな場所？

近鉄に乗って伊勢神宮を参拝される場合、最寄り駅として宇治山田駅で降りる方が多いようですが、突然出てきた「宇治山田^{うじやまだ}」という駅名に疑問を感じる方もあると思います。

伊勢神宮がご鎮座している伊勢市ですが、かつて昭和30年(1955)までは宇治山田市という名前でした。もともと内宮の鳥居前町は宇治、外宮の鳥居前町は山田と呼ばれ、それぞれ別の自治組織をもち発展してきました。その後、明治22年(1889)に宇治と山田、2つの地域が合併して町制が施行され、明治39年（1906）には宇治山田市となり、長く人々に親しまれてきました。

伊勢市への改称にあたり、内宮前の住民は、伝統ある宇治の地名が消えることを残念に思い、それまであった町の名前の頭に「宇治」をつけて残しました。その為、内宮周辺の町名はいずれも「宇治〇〇町」という名前になっています。

ちなみに、内宮がご鎮座されているところは「宇治館町^{うじたちょう}」。館^{たち}とはかつて内宮前に神宮の神職である禰宜^{たち}の館（やかた）が立ち並んでいたことからついた地名です。

伝統ある宇治山田の名称ですが、現在では近鉄宇治山田駅や県立宇治山田高等学校などの名称にその名残を残しています。

伊勢にはもう一つ、神宮のお膝元ならではの「神都^{しんと}」という呼び名もあります。こちらも、会社名や商品名で現在も見ることができます。

まめ知識 〜その11〜

万金丹ってどんなもの？

伊勢路のお土産として有名なものに、伊勢白粉^{いせおしろい}と万金丹^{まんきんたん}があります。

最近では聞かなくなりましたが昔は「越中富山の反魂丹^{はんこんたん}、鼻くそ丸めて万金丹」という俗謡もあり、和漢植物を配合した薬の事で、伊勢路の土産物として全国に広まりました。

江戸時代や明治時代には万病に効く薬とされ、印籠の中にも多く入れられ、懐中薬の代表で旅の道中に常備するお腹の万能薬として知られていました。

現在は医薬品としてではなく、医薬部外品としてお腹の調子を整えるサプリメントのような形で販売がされ、いまでも伊勢参拝のお土産として親しまれています。

まめ知識 ～その12～

お蔭参りってなに？

江戸時代、数次にわたりみられた伊勢神宮への集団参宮のことをいいます。慶安3年（1650）、宝永2年（1705）、明和8年（1771）、文政13年（1830）の4回が著名であり、中でも文政の「お蔭参り」は、阿波国（現在の徳島県）から始まった伊勢参宮が全国に広まり、数ヶ月で500万もの人々が参宮したといわれています。当時日本の人口がおよそ3千数百万人といわれていますので、そのお参りの多さに驚かされます。

この様に、爆発的なお参りがあった要因として、天下統一により、旅の安全が増したことや各藩の領地を通る為に必要不可欠な通行手形が、社寺参詣目的の旅についてはほぼ無条件で発行して貰えたこと、また、村や集落などの共同体で定期的にお金を積み立て、くじ引きなどによって代表者（数名）が参宮に行く「伊勢講」という仕組みが全国的に広まったことが挙げられます。また、「御師^{おんし}」と呼ばれる、伊勢へ参詣者を導き、祈祷や宿泊などを取り計らった者の活躍が大きかったと考えられています。

この「お蔭参り」は「抜け参り」とも呼ばれ、子が親に、妻が夫に、奉公人が主人に無断でこっそり旅に出ても、伊勢神宮へお参りした証拠の品物を持って帰ればお咎めを受けることはありませんでした。お金も持たず着の身着のままで旅に出ても、沿道の人々が笠^{かさ}や蓆^{ひしゃく}、柄杓など、旅支度を施してくれます。

参宮者は「おかげ」と書いた笠と柄杓を持ち、沿道で旅に必要な杖や草履をはじめ、宿や食べ物、更には駕籠やお酒を施行^{せぎょう}されたことから、多くの人々が長旅を続けることが出来ました。

まめ知識 ～その13～

両宮第一別宮には、なぜ鳥居がない？

神社の象徴的な建造物といえば、やはり「鳥居」で、神社を表す地図記号にも使われています。伊勢神宮にも宇治橋や参道などに多くの鳥居があり、別宮にも鳥居が建っていますが、なぜか天照大御神の荒御魂をお祀りする内宮第一別宮の荒祭宮^{あらまつりのみや}、豊受大御神の荒御魂をお祀りする外宮第一別宮の多賀宮^{たかのみや}には鳥居がありません。

第一別宮は14ある別宮の中でも、ひとときわ尊ばれているお宮で、他の別宮と違い正殿^{しょうでん}（本殿）の回りを囲っている瑞垣^{みずがき}の外に、もうひとつ玉垣という垣根があり、その正面には玉垣御門^{たまがきごもん}と呼ばれる門が建てられています。

ちなみに鳥居は神社に建てられる門の一種ですが、全ての神社に必ずあるという訳ではありません。ですから、第一別宮である荒祭宮・多賀宮の場合、鳥居が無いということではなく、鳥居よりも格式のある門が設けられているということになります。

皆さんもお参りの際に一度確かめてみられてはいかがでしょうか。

まめ知識 ～その14～

暦ってどうやって見るの？

暦とは、一年間の月日・祝祭日・干支・日の吉凶などを、日を追って記したものです。暦には様々な種類が存在し、皆さんが普段目にしているカレンダーも暦の一種です。

一般的な暦には^{れきちゆう}暦注^{ろくよう}注^{たつ}と^{なる}いて、日時・方位などの吉凶やその日の運勢などの事項が^{たいあん}注記^{ぶつめつ}されています。暦注には大安・仏滅など一般的にも有名な「六曜」や、建・成・危などの「十二直」、三隣亡・一粒万倍日をはじめとする「選日」などがあります。

暦注には様々な種類があるので、全てにおいて吉となる日を探そうとしても、なかなか見つけることができません。「暦は縦に読むな、横に読め。」という言葉もあるくらいで項目を絞って見ると良いといわれています。

しかし、「思い立ったが吉日」ともいうように、あまり暦ばかりに縛られることなくご自身の都合の良い時をまずは優先するのが良いでしょう。

ちなみに伊勢神宮でも「^{じんぐうれき}神宮暦」という暦を作成しています。これはかつて江戸時代に、伊勢神宮の^{おふだ}御神札とともに広く全国に配られていた「^{いせごよみ}伊勢暦」の伝統を引き継ぐもので、明治時代から終戦までは、政府が認める国内唯一の正しい暦とされ、「^{ほんれき}本暦」と呼ばれました。

その為、「神宮暦」には「六曜」などの吉凶を示す項目はなく、様々な気象データに基づく科学的な内容が記されているのが特徴です。

お祝い事は正式には紅白幕ではない

紅白幕は結婚式や入学式など、慶事に用いられ、皆さんも幾度となく見たことがあると思います。紅白はハレを意味するといわれており、お祝い事に多く用いられることから、「お祝い事」＝「紅白幕」と思われている方が多いようですが、本来は慶事・弔事に関係なく、「鯨幕^{くじらまく}」と呼ばれる白と黒の幕を使用します。「鯨幕」とは、鯨の体が黒と白の二色であることから由来するそうです。近年一般的には通夜や葬式などの弔事に使われる幕なので、驚かれる方も多いかもしれませんが、日本ではもともと弔事には白い色が使われていました。白装束などがあるのもその為です。しかし、西洋の文化が入るにつれ、西洋では弔事に黒い色を使う為、今では白黒の「鯨幕」を弔事に使うことが一般的になってしまいました。黒色は、日本では古来高貴な色の一つとされてきましたので、今でも皇室では慶事・弔事に関係なく、また伊勢神宮においても神事には白と黒の「鯨幕」が使われているのです。

まめ知識 ～その16～

神宮大麻ってなに？

伊勢神宮の御神札を「神宮大麻」といいます。「天照皇大神宮」の銘が入っており、ご家庭の神棚にお祀りされているのを見たことがある方も多いと思います。「神宮大麻」は全ての日本国民が、伊勢神宮の天照大御神に崇敬の真心を通わせる為に頒ち配られている御神札です。

神宮大麻の起源は平安時代まで遡ります。「御祓大麻」、「お祓さん」などとも呼ばれ、「御師」といわれる人々により配られていました。「御師」とは、神宮と全国の崇敬者の間を取り持った神主のことで、お伊勢参りをされる方々の道案内や、宿の提供、ご祈祷の取り次ぎをし、年末には御師がお祓いた大麻・暦を全国の家々にお配りしていました。

御神札のことをなぜ「大麻」というのでしょうか。大麻は訓読みで「おおぬさ」と読み、「おおぬさ」と読んだ場合には、神社でお祓いに使われる道具を指します。伊勢神宮の御神札は、御師がご祈願（お祓い）をしたそのお印としてお配りした為、「おおぬさ」に因んで、音読みで「大麻＝たいま」と呼ばれるようになったのです。江戸時代の終わり頃には、全世帯の約9割が御祓大麻を授かっていたとの記録もありますが、こうした御師の活躍によって、全国どの地域の人々にも伊勢神宮への信仰と崇敬が深く根付いていったのです。

やがて明治時代に入り近代化を迎える中で、伊勢神宮の制度も大きく改変されました。この時、御師の制度は廃止されましたが、新たに明治5年（1872）に、明治天皇の「朝な夕なに天照大御神を慎んで敬い拝む為の“大御璽”として、神宮大麻を国民すべての家々に漏れ落ちることなくお祀りさせよ」との思し召しにより、改めて伊勢神宮が直接大麻を奉製し、全国にお配りする形が整いました。

昭和21年（1946）以降、神宮大麻は全国神社の包括組織である「神社本庁」により全国の神社を通じてお配りされるようになり、現在

に至っています。

日本の総氏神様として常に国民をお守りくださる伊勢神宮の御神札を、氏神様の御神札とともに毎年新たにお受けし、私達の祖先が遠い昔からしてきたように、日々の生活の中で伊勢神宮に心を通わせ、天照大御神から頂いているお恵みに感謝の心を捧げたいものです。

なお、神宮大麻はお近くの氏神様でお受け頂けます。



伊勢神宮 検定クイズ



神主さんが教えたい！

神宮 Q&A

知ってるようで知らない！知っていると
ちょっとみんなに自慢できちゃうよう
な伊勢神宮についてのQ & Aをクイズ
形式でお届けします！

何問正解できるか挑戦してしてみてください！



Question 1

まずはもっとも基本的な問題から出していきます！

一般にみなさんは「伊勢神宮」と呼んでいますですが実は本当の名前は違うのです！
正式名称はなんでしょう？



次の中から選んでください！

- ① 伊勢大神宮
- ② 天照大神宮
- ③ 神宮
- ④ 豊受大神宮

Q1：答えあわせ

正解は③番「神宮」でした！

「お伊勢さん」「大神宮さん」と親しく呼ばれ、辞書を引いても「伊勢神宮」と紹介されていますが、実は単に「神宮」というのが現在の正式な名称です。

Question 2

伊勢神宮には天照大御神をお祀りする「皇大神宮（内宮）」と豊受大御神をお祀りする「豊受大神宮（外宮）」があります。実はお参りする順序があります。さて、それはどのような順序でしょう？



次の中から選んでください！

- ① 内宮から外宮へ
- ② 外宮から内宮へ
- ③ 内宮だけお参り
- ④ 外宮だけお参り

Q2：答えあわせ

正解は②番「外宮から内宮へ」でした！

神宮での参拝の順番・順路としては、外宮の豊受大御神に参拝し、内宮の天照大御神を参拝するというのが古くからの慣わしとされています。是非、外宮から内宮へとお参りしてみてください。

Question 3

第3問からは少し難しくなります。

内宮・外宮の両方とも屋根の端から棒のようなものが出ているのを知っていますか？ あれは「千木^{ちぎ}」といって、多くの神社でも見ることができます。形も一種類ではないのですが、では内宮の千木の形はどれでしょうか？

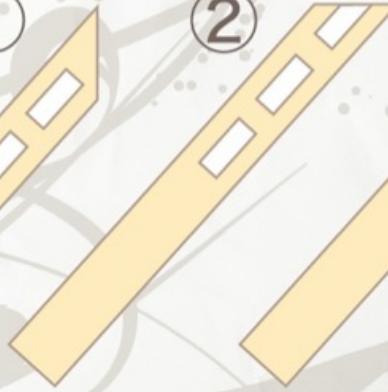


次の中から選んでください！

①



②



③



Q3：答えあわせ

正解は②番でした！

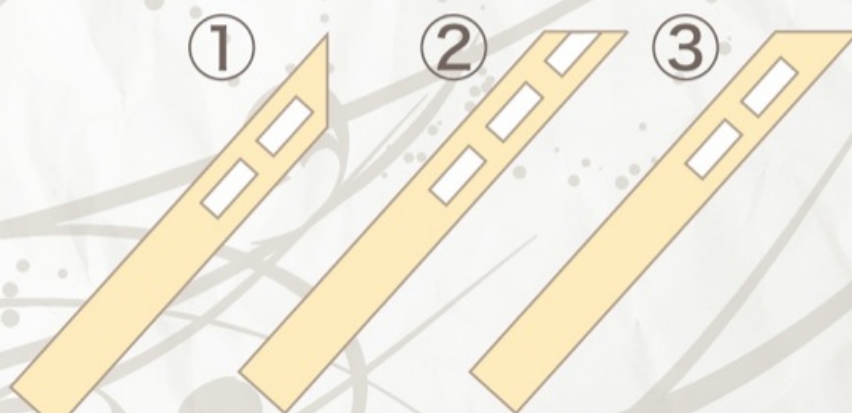
内宮の千木は、先端の切り口が地面に対して水平に切られています。これを「^{うちそぎ}内削」と呼んでいます。

また、^{かざあな}風穴が2つ半あいているのも、特徴の1つです。
内宮正殿以外の正宮御垣内の建物をはじめ、内宮に所属している別宮・摂社・末社・所管社の社殿も同様に、千木の形は内削となっています。

Question 4

さて、次は外宮に注目をしてみましょう！
外宮の千木の形は下の内のどの形でしょうか！

次の中から選んでください！



Q4：答えあわせ

正解は①番でした！

外宮の千木は、先端の切り口が地面に対して垂直に切られています。これを内宮の内削に対して「外削」と呼んでいます。
また、内宮の風穴が2つ半あいているのに対し、外宮では2つとなっているのも特徴です。
外宮正殿以外の正宮御垣内の建物をはじめ、外宮に所属している別宮・摂社・末社・所管社の社殿も同様に、千木の形は外削となっています。
みなさんもお参りの際に、内宮と外宮の千木の違いを確認してみてください。

Question 5

さて次に内宮の「御稲御倉」^{みしねのみくら}についての問題です。ここには神宮の神田^{しんでん}で収穫された稲穂が納められていて、そのお米は重要な祭典の際に使われます。

稲穂を保管するために御倉の床はずいぶん高いところにあります。ではその高さはどれくらいでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 50 cm
- ② 80 cm
- ③ 100 cm
- ④ 120 cm

Q5：答えあわせ

正解は③番「100cm」でした！

重要なお米を守る為に、これほどにも高い床なのです。伊勢神宮の
両正宮に代表される神明造^{しんめいづくり}の建築様式を間近に見ることができる
建物です。是非訪れてみてください。

Question 6

あらまつのみや

内宮の荒祭宮についての問題です。

実はこの荒祭宮に向かう途中の石段に、古くより「踏んではいけない」と言い伝えられている石があります。

さてそれはどのような石でしょうか？

次の中から選んでください！



①



②



③



Q6：答えあわせ

正解は**①番**でした！

荒祭宮は内宮で正宮の次に大切なお宮とされていて、勅使（天皇陛下のお使い）も祭典をご奉仕されますが、ここに向かう石段の途中に「天」の字に割れているといわれる石があります。これが「踏まぬ石」で、古くより踏んではいけないと伝えられている石です。お参りの際に探してみてください。

Question 7

宇治橋を渡って火除橋までの内宮神苑は、
芝生と木々の彩る参道です。

ここに、大正天皇が皇太子時代にお手植
えされた木があります。それは何の木で
しょう？



次の中から選んでください！

- ① 楠
- ② 松
- ③ 梅
- ④ 桜

Q7：答えあわせ

正解は②番「松」でした！

大正天皇は皇太子時代の明治24年（1891）に直接、松をお手植えされました！

伊勢神宮には皇室のご先祖にあたる天照大御神をお祀りしているので、天皇陛下をはじめ皇族の方々も多くご参拝になります。

Question 8

伊勢神宮に参拝することを「お蔭参り」と言い、旅ができない人は代参^{だいさん}といって人に頼んで代わりにお参りする事もありました。明和8年（1771）にある動物が代わりに参拝に来たという事で話題になりました。さてその動物はなんでしょう？



次の中から選んでください！

- ① 猫
- ② 猿
- ③ 犬
- ④ 馬

Q8：答えあわせ

正解は③番「犬」でした！

昔、犬が山城国（現在の京都府）から、はるばる伊勢に参拝をしたという事で話題になりました。犬に代参をお願いするという事で、お金を与えた人が道中いたそうで、その犬はたくさんの金を首につけていたそうですが、不思議とそのお金を途中で奪う者もなく、また家まで無事に戻ってきたそうです。このことから、当時の人々の伊勢神宮に対する信仰心を見て取ることができます。いまでは「おかげ犬」としてマスコットキャラクターなどにもなっています。

※ 現在伊勢神宮では、ペットを連れての参拝は出来ません。

Question 9

内宮神楽殿の「御饌殿^{みけでん}」の前に手水石があり、模様が2頭の生き物のように見えます。それは何と何でしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 竜と虎
- ② 犬と猿
- ③ 亀と鳳凰
- ④ 鶴と亀

Q9：答えあわせ

正解は①番「**竜と虎**」でした！

伊勢神宮には、「神楽殿」という建物があり、ここで御神札・御守を受けられるほか、ご祈祷もここで受けることができます。内宮の神楽殿の前には、手を清める手水を溜める円筒状の石があり

「りゅうこせき竜虎石」と呼ばれています。確かにその手水石をよく見ると、竜と虎が浮き出ているようにも見えます。

Question 10

伊勢神宮の所有する土地は、お宮・お社のある「神域」「社域」の他に、御用材を生産する「宮域林」、お供え物を生産する「御料地」など様々あるのですが、その総面積はどのくらいでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 約 7500 ヘクタール
- ② 約 6700 ヘクタール
- ③ 約 5600 ヘクタール
- ④ 約 3400 ヘクタール

Q10：答えあわせ

正解は②番「約6700ヘクタール」でした！

実は伊勢神宮が所有する土地はこんなに広いのです！ちなみに東京ディズニーリゾートと比べるとディズニーランドは51ヘクタール、ディズニーシーは49ヘクタールで、これでも合計100ヘクタール。なんとディズニーリゾートの67倍もの広さがあるのです！

Question 11

外宮の手水舎の反対側に楠の巨木がありますが、この楠はある武将が勅使として外宮に参向した際に、楠の木の枝がその人物の冠に触れたため、枝を切らせたという伝承が残っています。その武将とは誰でしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 平清盛
- ② 源頼朝
- ③ 足利義満
- ④ 豊臣秀吉

Q11：答えあわせ

正解は①番「**平清盛**」でした！

平成24年の大河ドラマでも活躍した平家の棟梁の平清盛ですが、実は勅使（天皇陛下のおつかい）として3回も伊勢神宮を参詣したという記録が残っています！

Question 12

いまや外国の方々の参拝も多くなってきた伊勢神宮。

次の外国の著名人のうち、伊勢神宮に参拝したことがない人物は誰でしょうか？

次の中から選んでください！



- ① ベーブ・ルース
- ② アルバート・
アインシュタイン
- ③ ダライ・ラマ 14世
- ④ ジョン・レノン

Q12：答えあわせ

正解は①番「ベーブ・ルース」でした！

実はあのアインシュタインやジョン・レノンにくわえて仏教者の
ダライ・ラマ14世までもが伊勢神宮に参拝したことがあるというの
も驚きですよ！

神主さんが教えたい！

遷宮 Q&A

知ってるようで知らない！
知っているとちょっとみんなに
自慢できちゃうような
伊勢神宮の式年遷宮についてのQ & Aを
クイズ形式でお届けします！
何問正解できるか
挑戦してしてみてください
ください！



Question 1

まずはもっとも基本的な問題から出していきます！

伊勢神宮では、一定の年数で社殿を建て替える行事がありますが、さて何年おきに建て替えるのでしょうか



次の中から選んでください！

- ① 5年
- ② 10年
- ③ 15年
- ④ 20年

Q1：答えあわせ

正解は④番「20年」でした！

しきねんせんぐう
式年遷宮とは20年に一度、伊勢神宮で建物、御装束や神宝をすべて新しくし、神様にお遷りをいただく祭典で、第41代持統天皇の4年（690）に第1回が行われて以来、1300年にわたり続けられてきました。

ちなみに式年とは「定められた年」という意味です。

Question 2

式年遷宮では御装束や神宝なども新しく
造り替えられ、それぞれ材料が異なります
が社殿は全て木材で造られています。
さてその木の種類はなんでしょう？



次の中から選んでください！

- ① ヒノキ
- ② クスノキ
- ③ ブナ
- ④ サクラ

Q2：答えあわせ

正解は①番「ヒノキ」でした！

新しい社殿を造る為の材料となるヒノキの木を伐り出す清らかな山を「御^{みそまやま}杣山」と呼びます。第34回式年遷宮までは伊勢神宮の背後の山をはじめとする伊勢国の国内から伐り出されました。

Question 3

式年遷宮の「^{せんぎょ}遷御」に至るまでには数多くの祭典や行事が行われておりますが、最初に執り行われる祭典は何でしょう？

次の中から選んでください！



- ① ^{やまぐちさい}山口祭
- ② ^{みそまはじめさい}御杣始祭
- ③ ^{ちんちさい}鎮地祭
- ④ ^{みとさい}御戸祭

Q3：答えあわせ

正解は①番「山口祭」でした！

「山口祭」とは御用材を伐採する御杣山の山口に鎮まっている神様をお祀りし、伐採と搬出の安全を祈る祭典で、式年遷宮のお祭の中で一番初めに執り行われます。ここ数回の式年遷宮の例によると、山口祭は遷御の8年前の5月に執り行われています。山口祭から始まり、「遷御」に至るまでには、およそ30の祭典と行事が行われています。

Question 4

社殿は御杣山から伐り出されたヒノキで建てられますが、式年遷宮ではおよそ何本のヒノキが御用材として使用されるのでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 約500本
- ② 約1000本
- ③ 約5000本
- ④ 約10000本

Q4：答えあわせ

正解は④番「約10000本」でした！

総材積は約8500立方メートルにもなり、なかには直径1メートル余り、樹齢400年以上の巨木も使用されます。現在伊勢神宮では、内宮の奥に広がる神路山・島路山からも御用材を調達することができるように植樹活動を行っています。

Question 5

神宮の建物は「掘立柱」に「萱の屋根」が特徴であり、建築様式は、神明造と呼ばれ、弥生時代まで遡る高床式穀倉の姿を当時のまま今に伝えています。では式年遷宮において、屋根を葺き替えるのに必要な萱の量はどれくらいになるのでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 11500 束
- ② 19500 束
- ③ 23500 束
- ④ 32500 束

Q5：答えあわせ

正解は③番「23500束」でした！

式年遷宮では両正宮及び14別宮を立て直す為、その屋根の葺き替えに必要な萱の量は23500束にもなります。ちなみに荒萱一束とは長さ180～220センチ・直径41センチもの大きさと重さはなんと一束26～30キロにもなります。

Question 6

平成25年の第62回式年遷宮では、その啓発活動の為に、ある日本の有名な歌手が特別に伊勢神宮の為にだけ歌を作って奉納されました。ではその有名な歌手とはだれでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 槇原敬之
- ② SMAP
- ③ さだまさし
- ④ 藤井フミヤ

Q6：答えあわせ

正解は④番「**藤井フミヤ**」さんでした！

「鎮守の里」という曲で、外宮、内宮を参拝した後、宇治橋の見える五十鈴川のほとりで河原に座り、ギターを弾きながら作曲されたということです。「鎮守の里」は伊勢神宮で生まれた曲なのです。

Question 7

戦国時代、戦乱による国内の乱れにより
式年遷宮は一時中断されましたが、天正
13年（1585）に両宮の正遷宮が執り行
われました。（内宮においては124年ぶり）
その復興に多大な献納をされた武将は
誰と誰でしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 武田信玄と上杉謙信
- ② 前田利家と明智光秀
- ③ 織田信長と豊臣秀吉
- ④ 徳川家康と伊達政宗

Q7：答えあわせ

正解は③番「**織田信長と豊臣秀吉**」でした！

歴史の古い伊勢神宮では、教科書や大河ドラマなどに登場する歴史上重要な人物が関わった逸話が、いくつも残されているのです！伊勢神宮の歴史は日本の歴史と常に深く繋がっています。

Question 8

式年遷宮では社殿の建て替えだけではなく、同時に「御装束^{おんしょうぞく}」という、正殿の内外^{ごりょう}をお飾りする御料も新たに作られます。
ではその御料は何種類あるのでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 175 種
- ② 350 種
- ③ 474 種
- ④ 525 種

Q8：答えあわせ

正解は④番「525種」でした！

新調される御装束は、正殿の内外をお飾りする御料^{ごりょう}の総称の事をさし、全部で525種類もあり、総数ではなんと1085点にもなります。

Question 9

式年遷宮では社殿の御造営、御装束という御料調製ごりょうのほかにも「神宝」しんぼうと呼ばれる調度品も新しくされます。

では、その神宝の種類は何種類あるでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 55 種
- ② 124 種
- ③ 189 種
- ④ 202 種

Q9：答えあわせ

正解は**③番「189種」**でした！

新調される神宝は189種類もあり、総数ではなんと491点にもなります。御装束・神宝の新調は式年遷宮に欠くことのできない大事業ですが、これらを時代ごとに造り変えることで、伝統工芸の優れた技術を次の世代に継承するという意義もあります。その点でも20年というのは優れたサイクルといえるでしょう。

Question 10

式年遷宮には予定どおり行われるものの以外にも、災害などのため20年を待たずに新しい社殿を建てて神様にお遷りいただく「臨時遷宮」が行われた事例もあります。では伊勢神宮ではこれまで過去何回臨時遷宮が行われたでしょうか？



次の中から選んでください！

- ① 2回
- ② 5回
- ③ 8回
- ④ 15回

Q10：答えあわせ

正解は②番「5回」でした！

第41代持統天皇の4年（690）に第1回の式年遷宮が行われて以来、災害などの為、これまでに内宮で5回だけ臨時遷宮が執り行われたことがあります。遷宮にはこのほかにも社殿の修理などの為に一時的に他の御殿にお遷りいただく「仮^{かり}殿遷宮」や「儲^{もうけ}殿遷宮」と呼ばれるものもあります。

神話芝居

～あめのいわとびらき物語～





むかし、むかし、日本の国の上には「^{たかまのはら}高天の原」という神様の国がありました。

そこには、たくさんの神様が住んでおられました。

中でも「^{あまてらすおおみかみ}天照大御神」という神様は、お日様（太陽）の神様で、とても美しく綺麗で優しい神様でした。



高天の原にいる他の神様達も、この天^{あまてらす}照様のお陰でお日様があたり、お米を作ったり、いろいろな物を育てて仲良く暮らしていました。

でも、この天^{あまてらす}照様には、一つだけ悩み事がありました。
・・・・それは、天^{あまてらす}照様の弟の神様のことです。



この神様は、「^{すさのおのみこと}須佐之男命」といいます。

この^{すさのお}須佐之男様はとてもイタズラが好きで、みんなが困ることばかりして^{あまてらす}天照様を悩ませていました。

さて、ここは^{あまてらす}天照様の田んぼです。

みんな仲良く働いている所に、^{すさのお}須佐之男様は現れました。

【^{すさのお}須佐之男】「なんだなんだ！！みんな仲良く働いて、おいら一人仲間外れじゃねーか！」

「よーし、つまらねーからまた何かイタズラをしてやるか。へっへっへっへー。みてろよおー！」



【須佐之男^{すさのお}】お米なんて無くてもいいや！メチャクチャにしちゃえー！エー——イ！」

須佐之男^{すさのお}様は、せっかく耕した天照^{あまてらす}様の田んぼのお米を台無しに
してしまいました。
そして今度は・・・・・・・・

【須佐之男^{すさのお}】「おっ、向こうの小屋で何かしてるな？ちょっと覗いてやれ」

「おっ？服を作ってるみたいだなあ・・・・・・・・」

「ふふふ・・・よーし、少し脅かしてやろお」



【機織り女^{はたおめ}】「きゃあ——・・・何なの？馬だわ！！誰か助けて
——・・・ああ—せっかく作った服が・・・・・・・・」

須佐之男^{すさのお}様はなんと馬を投げ入れてしまい、せっかく作った服をむ
ちゃくちゃにしまいました。



ところかわって・・・・・・・・

このことをお聞きになった天^{あまてらす}照様は・・・

【天^{あまてらす}照大御神】「なんて事を・・・グスウングスウン・・・私の責任だわ・・・」

「私がいなくなれば、もうイタズラなんてしなくなるかも・・・・・・・・」

・・・・・・・・っと、ついに、入れば天^{あまてらす}照様以外には開けられない

「天^{あめのいわと}の岩戸」の中にお隠れになられてしまいました。

「天の岩戸」っていうのは、大きな岩で出来たお家です。



^{あまてらす}天照様がいなくなると、国中が真っ暗になり、木や草、お米や果物も育たなくなり国中にカビが生え、神様の中には病気になるものも出て、大変な騒ぎになりました。

さてさて、これから神様の国はどうなってしまうのでしょうか？

国が真っ暗闇になってしまい、このままではだめだと思った神様達は、
みんな集まって相談することにしました。



「おいおいどうするよ！」

「食べ物がみんなだめになってしもうた！」

「私の家の周りなんかカビが生えて、もう臭くてたまらん」

「いったい、どうしたらいいんだ！」

と、みんなで相談していると、「^{やごころおもいかね}八意思兼」という神様がいました。

^{おもいかね}【思兼】「おっ、そうじゃ！良いことを思いついた。」

「わしに、良い考えがある。よいか、みんな！今からわしのいう通りにするのじゃ！」

「先ず、鶏をたくさん集めなさい。」「次は、力持ちの^{あめのたちからお}天手力男の神を呼んできなさい！」



この神様は、国中で一番力持ちの神様です。

^{あめのたちからお}**【天手力男】**「はっ、お呼びですか？^{おもいかね}思兼様」

^{おもいかね}**【思兼】**「うむ！おまえはわしが合図したら、一気に天の岩戸の扉をあけるのじゃ」

^{おもいかね}**【思兼】**「合図するまでは、岩戸の横に隠れておれ」

^{あめのたちからお}**【天手力男】**「わかりました！」

^{おもいかね}**【思兼】**「次は、踊りの上手な^{あめのうずめ}天宇受売の神を呼びなさい」



この神様は、国中で誰よりも踊りがうまい神様です。

^{あめのうずめ}
【天宇受売】「はい、お呼びですか^{おもいかね}思兼様」

^{おもいかね}
【思兼】「うむ、おまえは岩戸の前で、楽しく踊りを舞うのじや」

^{あめのうずめ}
【天宇受売】「はい、わかりました」

^{おもいかね}
【思兼】「よーし、用意は出来たか！」「みんな岩戸の前に集まるのじゃー！」

用意が出来た神様達は、みんな岩戸の前に集まりました。

^{おもいかね}
【思兼】「よいか、先ず鶏を大声で鳴かせなさい！」



「コケッコッコー」

おもいかね
【思兼】「次は、みんな岩戸の前に火を焚いて、明るくするのじや」

おもいかね
【思兼】「あめのうずめ天宇受売の神！踊りなさい！」
「よーし！宴会じゃ 大宴会じゃー！！」



外の騒ぎに気づいた天^{あまてらす}照様は・・・・・・・・



^{あまてらすおおみかみ}
【天照大御神】「あら？外がなにやら騒がしいようだけど、どうしたのかしら？」

^{あまてらす}
天照様は少し岩戸を開いてその様子を見てみることにしました。

《ガラガラガラ・・・・・》

そこにすかさず、^{おもいかね}思兼様が岩戸に近づきいいました。

^{おもいかね}【思兼】「この国には、^{あまてらす}天照様よりもっと尊い神様がおられます。」

「ここにお連れいたしましょう」

と、いって岩戸の中の^{あまてらす}天照様に鏡を見せました。



昔、鏡は大変めずらしい物でしたので、天^{あまてらす}照様はご自分の顔を見たことはありませんでした。

自分の顔を鏡で見た天^{あまてらす}照様は、

【天^{あまてらす}照大御神】「あらあ？見慣れぬ神様がいるようだけど、どんな神様かしら？」

天^{あまてらす}照様は、もう少し岩戸を開けてみることにしました。

《ガラガラガラ・・・・・》

そして、天^{あまてらす}照様が岩戸からお顔を少し出された その瞬間！！

思^{おもいかね}兼様は叫びました！！



^{おもいかね}
【思兼】「よし、今じゃ！^{あめのたちからお}天手力男、岩戸を開けるのじゃ！」

そこに隠れていた^{あめのたちからお}天手力男は、少し開いた岩戸に手を掛け、一気に力一杯引っ張りました。

^{あめのたちからお}
【天手力男】「エエーイ！！」



見事岩戸は開かれ、光に包まれた天^{あまてらす}照様を連れ出す事に成功しました。

「おおおお・・・天^{あまてらす}照様じゃ！」

「天^{あまてらす}照様が、岩戸から出て来られたぞー！！」

と、岩戸の前では、たくさんの神様達が大喜びで天^{あまてらす}照様を出迎えました。



そして、世の中はまた明るくなり、神様達はみな幸せに仲睦まじく暮らしました。

これ以降、須佐之男様は立派な神様になり

あまてらす天照様は二度と岩戸にお隠れになることはなくなりました。

めでたし、めでたし！

神主さんが教えた伊勢神宮

【発行】

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2

神社本庁内

神道青年全国協議会

【発行者】

神道青年全国協議会

【編纂】

神宮式年遷宮の“こころ”を守り伝える委員会

【画像・イラスト提供】

神宮司廳

神宮徴古館

伊勢神宮式年遷宮広報本部

東京都神道青年会

大阪府神道青年会

本書の内容・写真・イラストの無断転載・複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。